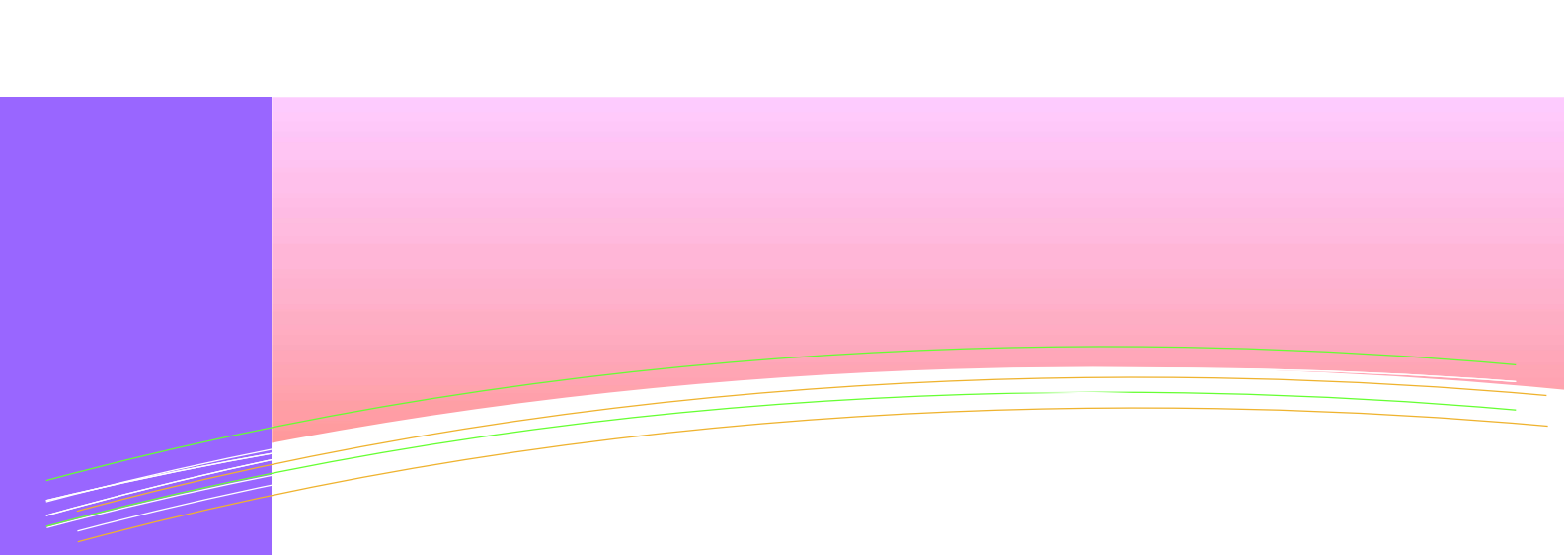




協働事例集 2012

-2021

～協働ってなあに？～

廿日市市

協働事例集の発刊にあたって

つながりを育み
「はつかいちが好き！」と言えるまちをつくるため
「廿日市市協働によるまちづくり基本条例」ができました。

しかし
「協働って何？」
「何から始めたらよいの？」
「どのように進めたらいい？」
という声を、たくさん耳にします。

そこで
すでに、廿日市市において
さまざまな分野で取り組まれている協働の事例を取り上げ
実際に取り組んでいる皆さんの
インタビューも織り込みながら
紹介するために
事例集をつくりました。

この事例集が幅広く活用され
協働によるまちづくりの輪が広がれば幸いです。

ご多忙な中を
快く取材にご協力いただき
熱い思いを伝えていただいた皆さまに
心からお礼申し上げます。

平成 24 年（2012 年）10 月

廿日市市 自治振興部長



1. 安全で安心して暮らせるまちに・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
マップづくりは信頼関係づくり ～浸水ハザードマップの作成～
「災害、まち、ひと」を知ろう ～チャレンジぼうさいin 四季が丘～
支所が地域をつなぐまちづくり ～防災を考えるつどい～
守りたい。地域の絆と未来につながる笑顔 ～消防団活動事業～
人の命、家族の安全を守る家づくり ～木造住宅の耐震化を促進する事業～
方法を工夫した情報発信にチャレンジ ～宮島消防署の弥山登山注意喚起動画の作成～
2. 恵まれた環境を未来につなぐまちに・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
みんなで支える、歴史ある活動 ～宮島 海と川の清掃～
地域ぐるみで課題解決 ～アルゼンチンアリの一斉防除～
3. やさしい心で支え合い、健やかに暮らせるまちに・・・・・・・・・・11
笑顔で歩いてみんなで楽しもう！ ～ハツラツ！ウォーキング事業～
地域の健康づくりを応援します！ ～健康づくり応援団～
チーム地御前で、めざせ健康日本一！ ～健診受診率向上キャンペーン～
知識より意識を高める ～生活・介護支援サポーター養成研修～
地域の医療・福祉・介護のネットワークづくりへ
～ちょっとひと息 医療とふくしの相談室～
杉之浦の中心から国際交流を叫ぶ！ ～宮島に住む人、みんな宮島人～
4. 子どもが健やかに育つまちに・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
みんなで支える学校、みんなで育てる子ども ～学校支援地域本部事業～
読書の楽しさを伝えたい！ ～ブックトークボランティア派遣事業～
おもてなしの心で道路清掃 ～マイロード事業～
高校生もまちづくりの一員 ～大野みんなのまつり～
親子で楽しい交流を！in 原地区 ～はらきっず～
コロナ禍の子育てを応援したい！ ～オンライン離乳食相談～
5. 多様な暮らしが選べ、快適に暮らせるまちに・・・・・・・・・・25
私たちの公園をつくろう ～公園づくりワークショップ～
活気あふれる元気な地域をめざして ～吉和おさんぽギャラリー～
子どもの声でにぎわう玖島をめざして ～くじまの森 自由なマーケット～
6. 盛んな産業とさまざまな働き場があり、成長するまちに・・・・・・・・29
企業の新商品開発を支援 ～広島工業大学研究室訪問事業～
あなたのチャレンジをサポートします！ ～廿日市ビジネスチャレンジコンテスト～
7. はつかいちならではの個性を育み、誇り・愛着が持てるまちに・・・・・・・・32
団塊世代の居場所づくりから、つながりのあるまちづくりへ
～四季が丘地区の住みよいまちづくり活動～
ひまわりと人の輪を咲かせよう ～花のある吉和づくり～

私たちのまちのルールは私たちの手で ～原地区景観協定～

次代につなぐ郷土の文化 ～宮島踊のDVD制作～

「歴史と文化を楽しむこと」から「まちへの愛着」へ ～はつかいち塾～

みんなの「ふるさと」を守りつづけるために ～大虫さくらまつり～

市民発案！地域の魅力紹介イベント ～とうもろこし食べようかい～

官民一体で国際大会を成功させよう

～ASTCアジアトライアスロン選手権2021廿日市～

 **地域とつながるワークショップの実施** ～住宅政策課の市営住宅セルフリフォーム～

8. 市民主体の協働により、みんなで幸せを実感できるまちに・・・・・・・・・・42

まず、わたしたちにお声かけください ～お客様案内スタッフ事業～

あなたのまちにお出かけします ～出前トーク～

地域資源を生かしたまちづくりに向けて ～地域学セミナー～

学生にボランティア活動のきっかけを！ ～大学と社協のボランティア事業～

市民センターがつなぐ地域づくり ～上平良さくらの里整備事業～

市民主体の拠点づくりから、持続可能な地域づくりへ

～佐方市民センターの地域運営～

「協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員」に

～地域コミュニティ活動体験研修～

住民の強い気持ちの人が人を動かす ～宮島島内の桜・紅葉の保全活動～

自分ごととして捉える in 吉和 ～吉和支所の仕事のしかた～

移動販売で買い物支援と住民交流の創出 ～四季が丘買い物サロン～

地区の人が集う場を作る ～串戸ワイワイ土曜朝市～

 **コロナ禍における持続可能なまちづくり**

～ICT を利用した活動支援「Zoom を使いこなそう研修」～

 **オンラインを活用した地域の打合せ・会議のあり方**

～廿日市市町内会連合会との連携～

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56

『協働』ってなあに？ ～インタビューの言葉を紹介します～

1. 安全で安心して暮らせるまちに

マップづくりは信頼関係づくり ～浸水ハザードマップの作成～
「災害、まち、ひと」を知ろう ～チャレンジぼうさい in 四季が丘～
支所が地域をつなぐまちづくり ～防災を考えるつどい～
守りたい。地域の絆と未来につながる笑顔 ～消防団活動事業～
人の命、家族の安全を守る家づくり ～木造住宅の耐震化を促進する事業～
方法を工夫した情報発信にチャレンジ ～宮島消防署の弥山登山注意喚起動画の作成～

マップづくりは信頼関係づくり ～ 浸水ハザードマップの作成 ～

■事業概要

info

平成 24 年度、佐伯地域及び吉和地域において、それぞれ住民参加により住民の知っている情報や過去から伝わる情報を持ち寄り、浸水が予測される区域および浸水の深さのほか、避難施設、防災関連施設などの情報を掲載したマップを、ワークショップを開催しながら作成します。



■事業の背景やきっかけ

introduction

廿日市地域、大野地域、宮島地域では、すでにハザードマップが作成されていますが、佐伯地域及び吉和地域では未作成のため、今年度作成することになりました。災害時に備えて、日頃からの防災活動にお役立てもらうためにもマップづくりは必要です。



上垣 僚さん

友和地区コミュニティ推進協議会

協議会の生活安全部で自主防災に取り組もうとしていたので、活発な話し合いができています。マップづくりをきっかけに、住民や市職員といろいろなことが話せましたが、こんなふうにお互い何でも相談できる関係が大切です。それを協働につなげることが大事。小さな事柄でもそこにつながっていくと思います。

完成後は、いざというときに逃げる場所を確認するためにも、皆でマップを持って地域を歩きたいと思います。



荏原 一仁さん

総務部 危機管理課

マップづくりが始まる前は、参加人数や積極的に知識・情報を出してもらえるか不安でした。しかし、地元住民の熱意や佐伯支所の調整力により活発な話し合いが行われ、非常にきめ細かいマップができるのではないかと考えています。関わる人が面と向かいそして話し合って進めることが大切。できたマップは防災の取組はもちろんですが、健康づくりなどさまざまな場面で利用し、地域づくりに役立ててもらいたいと思います。

■インタビューを終えて・・・

review

今回のマップづくりでは、友和地区の住民、佐伯支所職員、危機管理課職員、それぞれの間でワークショップの前後に「顔を合わせて」よく話し合いができていた点が、活発なワークショップにつながっていると感じました。関係づくりの継続が地域の防災に効果を発揮すると思います。

2012. 9. 12 取材

「災害、まち、ひと」を知ろう ～ チャレンジぼうさい in 四季が丘 ～

■事業概要

info

平成26年度に、防災に関わる人材の裾野拡大と地区住民の防災意識の底上げのため、四季が丘地区自主防災連絡協議会と市が連携して、「チャレンジぼうさい in 四季が丘」という事業を立ち上げました。

具体的には、防災講演会やウォーキングなどの6つの地域行事＋防災訓練に参加してポイントを貯めると記念品がもらえるという取り組みにより、多くの地区住民に防災に対する意識を持ってもらえるような機会づくりを行っています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

四季が丘地区自主防災連絡協議会は、平成16年の発足以後、防災マップの作成や全町内会での防災訓練、大学教授による防災講演会など、自主防災活動を継続的に実施しており、平成22年には広島県知事表彰（自主防災組織の部）を受賞しました。平成26年からは、市と連携し、「チャレンジぼうさい in 四季が丘」を立ち上げ、「災害」、「まち」、「ひと」を知ることが『防災』に繋がることを伝え、地区住民の防災意識の底上げに取り組んでいます。



藤田 章さん



前田幸太郎さん



尾崎 節夫さん



湯田 廣敏さん

四季が丘地区 自主防災連絡協議会

夏祭りやとんど祭りなど、普段から地域で行っている行事に防災の視点を取り入れたことで、地区の住民には、少しずつ防災意識が浸透してきているのではないかと考えています。市の職員は、関連行政機関との連絡調整や計画・スケジュールの作成など事業への積極的な参加支援をしてくれて、感謝しています。

今後は、避難行動要支援者名簿とあわせて防災マップを作り直し、それを踏まえた防災訓練を実施するなど、新たな取り組みをつなげていきたいです。

自治振興部 地域政策課

自主防災連絡協議会の方々が、お仕事のかたわら、精力的に活動されている姿に感心するとともに、感謝しています。協働とは、地域と行政が話し合い、目的を共有し、同じ方向を見て、できることをやっていくことだと思っています。市でできること、地域でできることは違うので、市の役割をしっかりと果たして地域のサポートをしたいと思っています。

今後は、四季が丘地区で培ったノウハウを生かして、同じようなプログラムを、他地域にも広めていきたいです。



佐川 智弘さん



中濱 泰洋さん



竹内 詔二さん



出口美知郎さん

■インタビューを終えて・・・

review

地域と市が一緒に考え、毎年活動を進化させながら継続的に取り組んでいることに、感銘を受けました。市職員が現地に出て、地域の活動を知り、市にできることを考える、その姿勢から地域との信頼関係が生まれていると感じました。

2015.11.7 取材

支所が地域をつなぐまちづくり ～ 防災を考えるつどい ～

■事業概要

info

平成 23 年 3 月 11 日に起こった、東日本大震災。佐伯地域にも被災地への支援にさまざまな立場に関わった人がいました。この貴重な経験を地域全体で共有したいと、その年の 8 月に被災地報告会を行いました。今後の防災のあり方を地域と行政と一緒に考えることができた、貴重な機会となりました。



■事業の背景やきっかけ

introduction

緊急消防援助隊として出動した廿日市消防署佐伯分署員、ボランティア、そして被災を体験された人が地域におり、防災を考えるきっかけづくりとして、被災地報告会を開くことになりました。佐伯支所から、津田・四和ふれあいまちづくりの会へこの取組について提案したところ、防災に取り組みたい時期であり、また、市民センター職員の意欲もあって、打ち合わせ会議を何回も重ね、役割分担や意見交換を行い、内容の濃い報告会を開催することができました。



山田 耕造さん

津田・四和ふれあいまちづくりの会

以前から、コミュニティで防災の取組はやりたいと思っていましたが、なかなかうまくいっていなかったのが、良い機会になると思いました。報告会に参加してくれるよう声かけやチラシの新聞折込をして、地域の皆さんに呼びかけましたが、参加者は予想より少なかったです。今回の 1 回だけでなく、続けて開催することが大切だと思いました。このコミュニティが設立して 5 年になります。コミュニティから市への積極的な提案はまだ難しいですが、一緒にまちづくりに取り組んでいきたいです。



倉田 耕三さん

佐伯支所

「防災を考えるつどい」は、コミュニティの方々のほか、消防団や女性会など、佐伯地域の皆さんの力を結集したからこそ、開催できました。今回に限らず、声をかけると、すぐに賛同してくださるばかりで感謝しています。このように、いつも地域と一緒に取り組みたいのですが、なかなか具現化できていないのが現状です。今回の報告会がきっかけとなり、地域全体に防災の意識が根付き防災訓練が地区ごと、地域全体で実施できるよう、事業の提案などに取り組んでいきたいです。

■インタビューを終えて・・・

review

報告会は、広報活動、体験談のパネリスト、コーディネーター、炊き出し調理など、すべての役割を佐伯地域の人々が担い、開催しました。人の力を生かし、まちづくりを活性化させるためにも、地域の人を結集させる、支所の「つなぎ」としての役割が大切になります。

2012. 9. 18 取材

守りたい。地域の絆と未来につながる笑顔

～ 消防団活動事業 ～

■事業概要

info

消防団は、消防本部や消防署と同様の消防機関です。地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。近年は、女性の消防団への参加の呼びかけを行うなど、団員の募集に力を注いでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

全国で過去 200 万人いた消防団の団員数は、現在では約 88 万人になっています。消防団員数が減少する一方で、女性消防団員数は年々増加しています。消防団の組織の活性化や地域のニーズに応える方策として、女性消防団員を採用しようという動きも全国的に広まっています。

廿日市市においても、女性の持つソフトな面をいかして、特に一人暮らし高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及指導などにおいて活躍を期待し、参加を呼びかけています。



伊藤 博さん

廿日市市消防団

消防団員を始めて約 40 年。長年やっていると消防だけでなく地域のコミュニティでもつながりもあり、お互いを知り尽くしていることから、人との輪のとりやすさを感じています。

若い世代の人員不足を懸念していますが、団員増に向けては、人の思いつかないことをやらないといけません。女性の団員も増やしていきたいと思います。

また、災害の少ない地域なので、常に訓練し、コミュニケーションを図っていくことが必要と思っています。



西村 典教さん

消防本部 警防課

本業のある中で活動してくださる団員の皆さんには感謝しています。皆さんからは自分の地域は自分で守るという熱い思いが伝わってきます。地域に密着した活動であり本部にない地域の詳細な情報も持っておられるなど、地域に頼りにされる存在です。団員が 2 年連続増えていますが、これは皆さんが地域での声かけを積極的に本気でやっていたいていたためです。これからもお互いの関係を大切にして、取り組みたいと思います。

■インタビューを終えて・・・

review

市民の安心と安全を守っていくために、人間関係を大切にしながらお互い活動していきたいというお二人の思いが、今も心に残っています。このような信頼関係のある消防団活動を多くの人に知ってもらい理解していただくことが、団員増に向けた取り組みにつながると思いました。

2012. 9. 12 取材

人の命、家族の安全を守る家づくり ～木造住宅の耐震化を促進する事業～

■事業概要

info

NPO法人広島耐震マイスター倶楽部と廿日市市建築指導課が協力し、市民を対象にした木造住宅の「無料耐震診断」と「耐震セミナー、耐震無料相談会」を毎年実施しています。

大規模地震に備えて耐震化を促進するため、耐震診断・耐震改修等、住まいの安全性を高める技術や手法の研鑽を積んだこのNPOに、市が耐震診断を委託。耐震セミナー等は共催の形で行っています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

廿日市市は、平成20年3月に耐震改修促進計画を策定し、民間住宅を含む建築物の耐震化の促進に本格的に取り組み始めました。このとき、広島県の担当職員の紹介で、県内住宅の耐震化に向けて活動を展開していたこのNPO（事務局：廿日市市内）と出会い、同年9月から毎年耐震セミナー＆耐震相談会を共催で行うこととなりました。無料耐震診断は、平成20年度から25年度までに累計で99戸行っています。



**NPO法人
広島耐震マイスター倶楽部**

小野 晃佑さん 私たちは、阪神淡路大震災の悲劇を絶対風化させてはならないという使命感を持つ建築家が結集し研究会からスタートしたNPOです。平成19年、広島県が耐震改修促進計画を策定。この動きに合わせて、地震の正しい知識等の啓発活動を県内各地で実施してきました。廿日市市内の市民センターからもセミナー開催の要望があり平良等で行いました。終了後も個別に耐震化等の相談を多く受けました。私たちの活動は行政の後押しで成り立っています。行政とベクトルを合わせて取り組んでいます。



都市・建築局 建築指導課

生永 政志さん

NPOとの連携により、本市の耐震診断の状況は着実に進んでいます。また、耐震診断後の改修工事においても、市の補助金だけでなく、NPOが国から採択を受けた長期優良化住宅リフォーム推進事業による補助金を紹介できるため、補助額も対象の工事内容も充実しています。

省エネ対策などで家の質の向上を図り寿命を延ばすこと、耐震化による家の強化は、市民の命を守ることにつながります。安全・安心で住みやすいまちができたかなと思います。それが使命です。

■インタビューを終えて・・・

review

NPOと行政が同じ方向を向き、社会の公益に取り組むことで、市民へのNPOの認知度が高まるとともに、正確な耐震診断の実績と丁寧な診断結果の説明から、会員である企業と業界の信頼も高まり、多様な主体の連携・協力による安全・安心なまちづくりが着実に進んでいくと感じました。

2014. 9. 18 取材

2021
新着

方法を工夫した情報発信にチャレンジ ～宮島消防署の弥山登山注意喚起動画の作成～

■実践事例

info

宮島消防署では、弥山での登山事故を減らすための広報を、さまざまな国から観光客が訪れることも考えて、動画で行おうと考えました。動画作成の予算はないし、経験者もないけど、安全・安心なまちを目指して、「やれば、できる」を実践しました。



■実践内容

main

1. この取り組みの背景

厳島神社のある宮島には、標高535メートルの弥山があります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大前は、年間400万人を超える観光客が訪れており、登山客も年間10万人ほど訪れていました。登山客の中には、事前準備をしない方もいましたので、注意喚起の広報を行っていました。

2. 工夫した点は？

登山に関する知識を付け、準備をしっかりといただくことで、登山事故を減らすことができるので、どのように広報をすべきか考えました。

動画を撮影する様子



そこで、インターネットの動画共有サービスを活用すれば、宮島に興味を持たれている多くの人に見ていただけたと考え、動画撮影に挑戦しました。さらに、アニメーションにして、海外の方にも見ていただくことにしました。

3. 結果として

宮島では、これまでチラシの配布やラジオによる広報を行ってきました。これは、決められた地域の方には影響力は高いですが、宮島のように様々な国や地域から人が訪れる場合には、広く情報を発信していく必要があることに気付きました。

■協働に近づいたポイントは？

review

情報は、相手方に受け取っていただくことが大切です。宮島が持っている特性を考え、世界中に届くよう動画を作成し、さらに英語音声版も作成しました。受け手のことを考えて情報を届けることも、協働にとって大切なことだと思います。

2021. 10. 19 研修発表から

2. 恵まれた環境を未来につなぐまちに

みんなで支える、歴史ある活動 ～宮島 海と川の清掃～
地域ぐるみで課題解決 ～アルゼンチンアリの一斉防除～

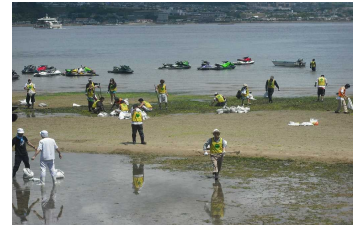
みんなで支える、歴史ある活動

～ 宮島 海と川の清掃 ～

■事業概要

info

宮島では、毎年1回、島民のほか、島外のNPOやボランティア団体も数多く参加し、島内の海と川で、ごみ拾いやアオサの除去、漂流物の撤去を行っています。昨年は18tものごみを回収しました。最近では、24時間テレビ「愛は地球を救う」が協賛しており、メディアを通じて、活動が紹介されています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

宮島で海と川の清掃が始まったのは、なんと昭和40年代。当時は、観光客によるごみのポイ捨てや、不法投棄、また下水道が整備されておらず、もみじまんじゅうに使用する小豆で海が小豆色に染まったりするなど、島の環境に関しては、ほとんど野放しでした。しかし、日本三景の一つとして、このままではいけない、宮島の景観を保全していこうと、宮島町公衆衛生協議会が立ち上がり、この清掃活動を始めました。



蒲田 正之さん

廿日市市宮島公衆衛生推進協議会

海と川の清掃を組織だっけ行うようになったのは、おそらく宮島が県内の先駆けだと思います。最近では、島外から20代、30代の若者のボランティア参加が多数あり、申込が200人を超えることもあります。島内の高齢者では、重くて持てないごみも彼らが持ってくれるので、助かります。

宮島地域では、住民の高齢化が進み、若者も減少しているので、清掃活動継続の過渡期に入っており、今後のあり方について検討する必要があると思います。



伊藤 正博さん

宮島支所 市民福祉課

ごみ運搬用の車両手配や、道路の使用許可などの手続きは大変ですが、この活動を通し、市民一体となって、宮島地域の環境を守っていきたいです。宮島公衆衛生推進協議会は、歴史、実績のある自慢できる会です。今後もこの会と支所がつながりながら、1+1=2、ではなく3以上に、つまり、それぞれの特性を出し合い、相乗効果が生まれるよう力を発揮することが大切だと思います。会の意思を反映できるよう、これからもサポートしていきたいです。

■インタビューを終えて・・・

review

海と川の清掃活動は、50年近くも続いている歴史ある活動ですが、活動開始当初は、町全体の取組となるまで、理解を得ることに苦労したそうです。しかし、そのときの努力があったからこそ、現在も続いている。この活動を絶やさぬためには、支所の支援が重要になります。

2012.9.11 取材

地域ぐるみで課題解決 ～ アルゼンチンアリの一斉防除 ～

■事業概要

info

廿日市市公衆衛生推進協議会の呼びかけにより、同協議会と各町内会連合会及び町内会が協力して、廿日市地域において地域ぐるみで取り組まれています。防除効果を高めるためには一斉に行うことが必須であることから、対象範囲内の市の施設など（公共施設）においても実施しています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

不快で生態系にも悪影響を与えるアルゼンチンアリは、平成5年に廿日市市内で初めて生息が確認され、その後も年々生息範囲を拡げており国内の各地で確認されています。防除は、各家庭が個別に取り組むよりも、町内会などのある程度広い区域で一斉に行う方が、効果的であることから、平成23年9月に、廿日市地区町内会連合会がアルゼンチンアリの一斉防除を実施しました。このとき公共施設でも併せて取り組み、一定の効果を上げています。



廿日市市公衆衛生推進協議会

日向 常雄さん

町内会連合会・町内会の役員の皆様と協力し取り組んでいます。

町内会によっては住民の高齢化が進んでいることから、一斉防除をお知らせする文書に、「班長さんは隣近所のお年寄りの方に声をかけてあげてください。」と一筆添えています。町内会の中でお互い協力し合うことが大事です。

また、住みよいまちづくりのためには、行政と町内会の相互の協力が重要です。なぜなら、みんな一人では生きていけませんから。



村田 克己さん

環境産業部 環境政策課

一斉防除マニュアルを作成して市民のみなさんに活用いただいたり、協議会へ資金援助するなど、公衆衛生という切り口で、地域の課題解決に取り組めるようバックアップを行っています。



山本由紀恵さん

町内会の加入率は低い状況ですが、今回のように、ひとつの課題に対して地域ぐるみで取り組み、それが解決につながればその重要性も伝わり、地域コミュニティ再生のきっかけになると思います。

■インタビューを終えて・・・

review

ご近所どうして力を合わせて取り組む大切さを感じました。

これをきっかけに、地域内での連携が進み、地域活動に参加する人が増え、お互い助け合える関係が築かれていけばよいと思いました。

2012.9.11 取材

3. やさしい心で支え合い、健やかに暮らせるまちに

笑顔で歩いてみんなで楽しもう！ ～ハツラツ！ウォーキング事業～
地域の健康づくりを応援します！～健康づくり応援団～
チーム地御前で、めざせ健康日本ー！ ～健診受診率向上キャンペーン事業～
知識より意識を高める ～生活・介護支援サポーター養成研修～
地域の医療・福祉・介護のネットワークづくりへ ～ちょっとひと息 医療と福祉の相談室～
杉之浦の中心から国際交流を叫ぶ！ ～宮島に住む人、みんな宮島人～

笑顔で歩いてみんなで楽しもう！ ～ ハツラツ！ウォーキング事業 ～



■事業概要

info

市民の健康づくりと互いの交流を図るため、市と「健康はつかいち 21 推進協議会」が連携して交流ウォーキングを推進しています。地域に合わせた方法やペースで進めていけるよう、各地区で主体的に活動するウォーキングリーダーを育成し、市民の皆さんと一緒に健康づくりを推進していけるような体制をつくりま



■事業の背景やきっかけ

introduction

この交流ウォーキングは、平成 19 年度「健康はつかいち 21 ハツラツ！はつかいち」策定時に提案され、重点プロジェクトとされました。当時ウォーキングが普及していなかった廿日市地域を中心に、ウォーキングリーダーが中心となって推進しています。平成 23 年度からは各市民センターを拠点として地区ごとに交流ウォーキングを企画していますが、独自で定期的を実施する地区もあるなど、広がりを見せています。



岡本 義文さん

ウォーキングリーダー

地域にある史跡や休憩スポットを取り入れてコースを決めています。歩きながら交流も生まれ、参加された方が「楽しかった」と言って、また次も参加してもらえると嬉しいです。現役時代は私たちも地域にお世話になっていました。今は退職して余力もあるので、その力を地域に還元できれば…と思っています。この事業がきっかけで保健センターに行くようになりましたが、市の職員さんはてきぱきと対応してくれ、いつも笑顔がよくて気持ちがよいです。



今村 達雄さん



今枝 真穂さん

福祉保健部 健康推進課

私たちは、企画段階での会議運営や、地域との調整役を担っています。ウォーキングリーダーさんたちはいつも主体的に動いてくださり、地域の皆さんのやる気を引き出してくださいます。これは私たち市の職員ではなかなかできないこと、本当にありがたいです。

ウォーキングは何も使わず、体だけで気軽にできる健康づくり。これを継続していくことが大切だと思います。ウォーキングリーダーさんたちが取り組みやすいよう支援していきたいです。

■インタビューを終えて・・・

review

まちづくりや地域づくりを進めていくためには、リーダー的な役割を担う人が欠かせません。この事業では、育ったリーダーさんたちが、地域で意欲的に活躍されており、それを市の職員が下支えをしています。

2012. 9. 10 取材

地域の健康づくりを応援します！

～ 健康づくり応援団 ～

■事業概要

info

健康でいきいきとした生活が送れるよう、将来的に介護が必要となる高齢者の減少を目指す目的で、介護予防の基本的な知識を持つ地域のリーダーを養成し、そのリーダーが地域に出向いて運動を指導する事業を行っています。リーダーは、「健康づくり応援団」として主に地域のサロン等に出向き、体操やボールを使った運動を指導することで、継続的に地域の健康づくりを応援しています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

廿日市市の高齢化率は26.9%(平成27年4月1日現在)で、今後も高齢化が進行することが予測されています。そのため、高齢者がより健康的な生活を送るためには体を動かすことでけがをしにくくすることが大切です。そこで、地域の身近な人が指導者となり継続的に運動を教え、高齢者の人と一緒に気軽に健康づくりをしていこうということで、始めました。

健康づくり応援団

最初は習ったことをそのまま教えていましたが、自分でアレンジし、高齢者のための体操メニューを考えるようになりました。各地のサロンで活動していくうちに民生委員さんの口コミもあり、応援団が地域で知られるようになり、今では自主的にサロンを立ち上げて活動している人もいます。これは場所の提供や、回覧板での周知など、地域の協力があつたからできたことです。応援団になり、「けつまずかなくなった」など参加者からの声を聞いたり、知らなかった人とも親しくなれて嬉しいです。



筒井康之さん



樋川静彦さん



浦川久恵さん

福祉保健部 健康推進課

健康づくり応援団の皆さんは人生の先輩であり、仲間のような存在です。皆さんの活動が増えている状況から、市民や地域からの要望が高いことを実感しています。活動内容も高齢者が集うサロンだけでなく、老人クラブの集まりなどに出向くといった自主活動も増えています。市民のために積極的に活動していただき、本当に感謝しています。私にとって「協働」は、一つの目標に向かって応援団の皆さんと市が協力していくことだと思います。今後は、サロンに出向き、参加者の声を聞きながら、地域に合った健康づくりを進めていきたいです。



土崎奈緒さん

■インタビューを終えて・・・

review

高齢者はつまづくだけでもけがをする可能性があるため、けが予防になる体操はこれからの時代に必要です。高齢者が体操をする習慣が様々な地域へ広まってほしいと思いました。私の考える「協働」は、人と人とのつながりを大切にし、助け合っていくことです。助け合いつながりを持つことで豊かな日々が送れるということを今回のインタビューを通じて考えさせられました。

2015.9.10 インターンシップ実習生取材

チーム地御前で、めざせ健康日本一！

～ 健診受診率向上キャンペーン事業 ～

■事業概要

info

市では、生活習慣病の予防をめざし、特定健康診査の受診を促進する取組を行っています。平成 25 年度は、平良地区、地御前地区、浅原地区で実施しており、その内、地御前地区では、町内会連絡協議会が核となってコミュニティ推進協議会や、長寿連合会など地区内の他団体と連携しながら、啓発活動に取り組んでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

特定健康診査の受診が義務化された平成 20 年度、市の受診率は広島県下で最下位から 2 番目でした。受診率向上のため、平成 24 年度に啓発の取組を平良地区に委託し、モデル的にスタート。契約書には、事業の目的や双方の役割などが明記してあり、協働で取り組むことを可視化しています。地御前地区は、平成 25 年度に本事業を受託、健康日本一という大きな目標に向け、地域一体となって取り組んでいます。

地御前町内会連絡協議会

市民センターのパソコンクラブで培った技を生かして啓発ポスターやしおりを作成し、自分たちで町内や医療機関に配布しました。この取組を通じてみんなが自分なりに健康に関心を持つようになりました。

これがスタート。5 年、10 年と継続して取り組んでいきたいです。職員のみなさんはきめ細かく動いてくださり、その一生懸命な姿に応援したくなります。市民センターの協力も大きいです。私たちは一緒に取り組む「チーム」です。

福祉保健部 健康推進課 地御前市民センター

地区のつどいなどで、この取組を理解していただけるよう、話をしています。地域のみなさんと接することで、顔の見える関係ができ、発見できたものもあります。地域のパワーを肌で感じ、地御前が大好きになりました。心から健康になってもらいたいという気持ちがわき、保健師としてこのような気持ちを持って、仕事に臨むことが大切だと思いました。

市民センターもつなぎ役としてサポートしており、この取組をきっかけに団体間の連携が強くなったと感じています。

藤咲 俊昭さん

円山 英和さん

一色 義秀さん

門田 万紀恵さん

河村 祥江さん

谷口 聖人さん

■インタビューを終えて・・・

review

委託という形をとりながらも、発注者と受注者という関係を越えて、共に取り組む「仲間」という印象を受けました。このように、互いが寄り添い、お互いを理解、尊重し、対等な関係で取り組んでいくことで、信頼関係が生まれるのだと思いました。

2013. 10. 23 取材

知識より意識を高める ～ 生活・介護支援サポーター養成研修～

■事業概要

info

日常生活での「ちょっとした困りごと」の解決に向けて、少し意図的に地域の暮らしに目配り、気配りをして、お互いにお手伝いし合える人を少しずつ増やしていくことを目的とした「知識より意識を高める」研修です。市がNPO 法人ふくし文化塾はつかいちに委託して実施していますが、市役所関係課も協力して企画しています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

平成 20 年度に全国で行われたモデル事業の一つとして取り組み、平成 21 年度は廿日市地域、平成 22 年度は佐伯地域、平成 23 年度は大野地域で開催し、5 年目となる平成 24 年度は宮島地域で開催します。これまでに養成されたサポーターは 171 人となりました。サポーターのみなさんの意欲が活動につながるよう、継続してフォローアップ研修の実施や、サポータークラブの立ち上げなど、その後の仕組みづくりにも取り組んでいます。



蛸江 紀雄さん

NPO 法人ふくし文化塾はつかいち

この研修を通して、地域への関心が一層高まり、何らかの活動をしている人にとっては、普段の活動の意味と価値を再確認する機会となりました。

NPO が持つ柔軟性や事業の質を高めるノウハウと支所や社会福祉協議会が持つ地域情報や社会資源などを組み合わせることで地域に密着した研修となり、成果を上げることができたと思います。

今後も「ちょっとした困りごと」の解決を当たり前のこととしてできる地域力を高めていくお手伝いをしていきたいです。



山本 紀子さん

福祉保健部 地域包括支援センター

地域ごとに実施している事業で、さらにいくつかの関係部署が関わって進める事業なので、各課の強みが生かせるような企画会議のコーディネートを心がけています。こういう仕事のやり方があるということに気がつき、この経験も成果のひとつだと思っています。

NPO のやり方や言葉の一つ一つが刺激になり、いつもアイデアをもらい、リードしていただいています。この事業だけでなく、これからも機会を見つけて一緒に取り組んでいきたいです。

■インタビューを終えて・・・

review

「委託」という形をとりながらも、実施する地域にあわせて、それぞれの得意分野を持ち寄ることにより事業展開ができ、成果につながっています。この場合、かかわるメンバー全員の「気持ちぞろえ」にしっかり時間をかけることが大切だと思いました。

2012. 9. 14 取材

地域の医療・福祉・介護のネットワークづくりへ ～ ちょっとひと息 医療とふくしの相談室 ～

■事業概要

info

医療や介護が必要となった高齢者が、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けることができるように、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、社会福祉士、精神保健福祉士、理学療法士、介護支援専門員や民生委員など、専門職と市が連携しながら、地域に身近な市民センターなどで相談室を開設しています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

平成 23 年度に広島県から委託を受けてモデル事業として実施し、以降取組みを継続しています。平成 17 年度に設立した廿日市市五師士会※では、高齢者の暮らしを地域で支える体制が必要だと以前から課題意識を持ち、その体制づくりに取り組んでいました。病院に行くほどではないと思うようなことや、自分のことではなく家族のことや隣の家の人の気になること…といった「ちょっとした相談」を気軽にできる場所を地域につくっていかようとしています。



森 マツエさん

廿日市市五師士会

この相談室に来られた市民の方が「話を聞いてもらえてよかった」とすっきりしたお顔で帰られる姿を見ると、とてもうれしいです。この取組がきっかけとなって、今まで交流のなかった職種の方とのつながりもでき、普段の仕事にも生きています。事務局は2人でやっています。本業との両立や事務的なこと、地域とのつながりなど大変ですが、市の職員さんがすぐに一緒に動いてくれ、担当以外の方でも話が通じて、安心です。



安田 美治さん



山岡 和美さん

福祉保健部 地域包括支援センター

専門職の方によるボランティアでの取り組み、本当に頭が下がる思いです。

私たち仕事で関わっている職員は、事務的な部分をスリム化させることや、地域との関係づくりなどしっかり役割を全うしたいです。この相談室がきっかけで、市役所にも相談に来てもらえるようになりました。

地域の暮らしのなかでの困りごとを解決するためのしくみなので、これからは地域の方と一緒に企画していきたいと思っています。

■インタビューを終えて・・・

review

進めながら、考えながらの取組…内容をメンテナンスしながら一歩ずつ前に進む間に、いろいろな立場の人たちが加わり、専門職と市職員、専門職相互、専門職と地域、地域と市職員というように、どんどん新しいつながりが生まれていきます。

2012. 9. 6 取材

※廿日市市五師士会：地域住民が安心して暮らせる地域づくりに貢献することを目的として、廿日市市の保健・医療・福祉に関わる専門職でつくられた組織（医師、歯科医師、薬剤師、看護師等（保健師、助産師、准看護師）、社会福祉士、精神保健福祉士、理学療法士、介護支援専門員）

杉之浦の中心から国際交流を叫ぶ！

～宮島に住む人、みんな宮島人～

■事業概要

info

住民の約 20%がフィリピン人という宮島杉之浦。
“個人でできることは限られているけど、それぞれができることを持ち寄ろう”と廿日市市国際交流協会、地元住民、宮島地域コミュニティ推進協議会、フィリピン人、そして宮島杉之浦市民センターが一緒になって、地元住民とフィリピン人との交流会を開きました。



■事業の背景やきっかけ

introduction

宮島杉之浦で暮らす住民約300人に対して、フィリピン人は約70人ほど。その多くが家族全員で宮島へ移り住み、子ども達を宮島学園に通わせながら、親はカキ打ちで生計を立てる暮らしです。職場と住居を往復するだけで、仕事に明け暮れる日々。地域の人と出会っても挨拶の言葉も分かりません。

一方で、杉之浦住民たちは、こうしたフィリピン人の存在を知りながらもどのように接したらいいのか、ずっと悩んでいました。この現状を気にかけていた市民センター職員と国際交流協会がフィリピン料理交流会の話を、地元住民に持ちかけたことが、この会の発端となりました。

宮島地域コミュニティ推進協議会

協議会のメンバーにも参加を呼びかけました。宮島にとって外国人との交流は、大変重要な問題です。地域住民にも積極的に交流会に参加してもらうことでコミュニティを活性化させ、フィリピンの人たちとの交流継続につなげていきたいです。



地元の人たち

地元の人たちに参加を呼びかけました。フィリピンのみんなが地元慣れ、一緒に幸せに豊かに暮らして欲しいと願っています。私たちも彼らと関わりながら、国際感覚を身につけ、隔たりのない生き方につなげたいと考えます。

(大越 知世さん談)

フィリピン出身者

みんなで料理を担当しました。宮島は自然があつていいところ。いろんな人と会うのが楽しかった。(シンさん談)



宮島杉之浦市民センター

市民センターは広報や、機会と場の提供を担当しました。同じ地区に暮らす住民同士、国籍や言葉の壁を乗り越えて、日々の生活、楽しく過ごしてほしいです。

廿日市市国際交流協会

交流会の企画、進行と通訳を担当しました。

フィリピンの人たちは陽気で家族を大切にする気質。得意な料理で地元の人たちと交流を深めることができ喜んでいる。これからも支援していきたいと思います。

■インタビューを終えて・・・

review

この交流会のコンセプト「それぞれのできることを持ち寄ろう！」がまさに協働を具現化した言葉。地域の住民が何を求めているかに気づいた市民センター職員の視点に、国際交流協会のアイデアと地元のみなさんの行動力が加わり、みなさんの気持ちが一つになった事業だと感じました。互いに理解し、尊重しあうことは協働の第一歩。今回の交流がもっと発展して、強い絆が生まれることを願っています。

2017. 3. 18 取材

4. 子どもが健やかに育つまちに

みんなで支える学校、みんなで育てる子ども ～学校支援地域本部事業～
読書の楽しさを伝えたい！ ～ブックトークボランティア派遣事業～
おもてなしの心で道路清掃 ～マイロード事業～
高校生もまちづくりの一員 ～大野みんなのまつり～
親子で楽しい交流を！ in 原地区 ～はらきっず～
コロナ禍の子育てを応援したい！ ～オンライン離乳食相談～

みんなで支える学校、みんなで育てる子ども

～ 学校支援地域本部事業 ～

■事業概要

info

学校支援地域本部事業は、学校の教育活動を地域の皆さんが支援する、いわば「地域につくられた学校の応援団」です。具体的には、書写の筆の持ち方や、家庭科の玉止め・玉結びなど、一人ひとりにしっかりかわることによって、より深い理解が得られる教科などで教員が行う指導の補助をしたり、校外活動時の見守り活動などをしたりしています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

これまでも、学校は地域の皆さんのさまざまな支援をいただいていたのですが、さらに地域ぐるみで学校を支援し、子どもを健やかに育てていきたいと、市では平成21年度に「大野中学校区学校支援本部」を設置、以降友和小学校区、大野東小学校、佐方小学校区にそれぞれ設置しました。この取組は教員や地域の大人が子どもと向き合う時間を拡充するほか、地域住民の学習成果を発揮する機会でもあり、「地域教育力」の活性化を図ることにもつながっています。



地域コーディネーター
学校支援ボランティア

子どもたちの指導をするのはあくまでも先生なので、先生が教えることが子どもたちにちゃんと伝わるような「支援」を心がけています。子どもたちの笑顔は財産！最近では男性のボランティアも増え、地域の高齢者が再び意欲的に地域社会と関わっていく広がりを感じています。PTAや学生にも関わってもらうなど、支援者側のつながりも広がっていきたいです。家庭、学校、地域の3者が手を組めば、必ずよい地域づくりにつながると思います。



大野 宣江さん



長尾 典子さん



馬杉 征三さん



荻田 敬子さん

教育委員会 生涯学習課

ボランティアさんたちの力、横のつながり、支援に関わる心構え…本当にすばらしく、感謝と尊敬の思いです。取組をPTAや地域のみなさんにしっかり伝えていきたいです。



内藤 圭太さん

私たちは中間の立場として、教員やボランティアさんがそれぞれの思いをお互いにうまく伝え合うことができるよう、率直な意見を言い合える環境をつくっていくことや、直面した課題について一緒に解決策を考えていくことなどの役割を果たしていきたいです。

■インタビューを終えて・・・

review

市民の皆さんが持つ知恵と、地域に貢献したいというエネルギーは、本市の財産です。さまざまな知識、技能などそれぞれに持つ得意なことをまちづくりに生かすことができるような環境を整えていくことが大切です。

2012. 9. 12 取材

読書の楽しさを伝えたい！ ～ブックトークボランティア派遣事業～

■事業概要

info

はつかいち市民図書館では、ブックトークボランティアが市内の小・中学校に訪れ、子どもたちに読書の楽しさを伝えています。

「ブックトーク」とは、ひとつのテーマにそって、あるいは何らかの関連性をもたせて数冊の本を選び、それらをつないで紹介することです。その目的は、「読んでみたい」という気持ちを起こさせることです。



■事業の背景やきっかけ

introduction

はつかいち市民図書館では、「子どもたちに本を手渡していきたい」という願いから、開館して以来毎年、“子どもと本の講座”を実施しています。平成21年度にブックトークの勉強会を始め、平成22年度に自主グループを立ち上げ、活動を開始しました。平成23年度から本格的に小学校の授業で実施することになり、地御前小学校と金剛寺小学校の2校へ、平成24年度は宮内小学校、阿品台東小学校、阿品台西小学校、宮島学園、友和小学校の5校へ訪問します。



ボランティアの皆さん

ブックトークボランティア

子どもたちが、読んでよかったと思ってくれるような本や、すすめる価値のある本を選ぶようにしています。紹介する本の傾向が一方に偏らないように気をつけ、幅広く選べるように日ごろから本をよく読みます。テーマの設定や選書、本の紹介の仕方など意見を出し合い、ブックトークが本に手をのばすきっかけになればいいと話合っています。

子どもたちに本を手渡したいという私たちの思いを図書館が実現してくださって、感謝しています。

はつかいち市民図書館



安達 紀子さん

ボランティアの皆さんと一緒に学校に行き、紹介した本をすぐに貸し出せるように準備しておきます。ブックトークの後は、いつも子どもたちが一斉に借りにきて、時には取り合いになることも。とてもうれしいです。子どもたちは忙しく、本を読む時間がなかなかありませんが、小・中学生の間だからこそ読んでもらいたい本がたくさんあります。それをボランティアさんからしっかりと伝えてもらって、ありがたいです。活動していただける範囲をもっと広げていきたいです。

■インタビューを終えて・・・

review

本が好きで、その気持ちを生かしたいボランティアと図書館、「子どもたちに本を読んでほしい」と思う図書館職員と学校、そして、子どもたちとボランティア、一つのつながりから新しいつながりを生み出し、その効果や充実感も2倍、3倍になっていると思います。

2012.9.15取材

おもてなしの心で道路清掃 ～ マイロード事業 ～

■事業概要

info

宮島学園（宮島小中学校、児童・生徒数 100 人）は、県道厳島公園線の宮島栈橋から宮島福祉センターまで約 1,000m の区間の「里親」となり、現在、5 年生から 9 年生（中学 3 年生）までの子どもたちが、授業時間外のボランティア活動として、歩道や海岸の清掃「マイロード事業」に取り組んでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

宮島学園では、おもてなしの心を大切に、観光や遠足のルートである栈橋付近から学校周辺と、学校の前の長浜海岸の清掃に取り組んできました。平成 13 年に広島県のアダプト活動団体に認定されて以降は「マイロード事業」として、市の協力に加え県からの活動経費も支援されるようになりました。年 3 回程度行う区間全域の清掃では、2t トラックいっぱい、重さにして 100kg 以上のごみが集まります。



沖野 李帆さん、廣畑 菜々子さん

宮島学園生徒会執行部 (8 年生)

自分たちの通る道なので、清掃をしてきれいになると気持ちがいいし、地域の人に「ありがとうね」と声をかけてもらえると嬉しいです。

上級生と下級生の交流や、地域の人との交流が生まれ、この活動を通じて宮島全体がつながっていくのがよいと思います。スタンプカードや 10 分ボランティアなど、みんなが気軽に自然に取り組めるようにやっています。



柴崎 英紀さん

宮島支所 観光管理課

市は、ゴミ袋の提供や集めたゴミの回収と処分を主に受け持っています。子どもたちと一緒に活動することで気持ちがつながり、通学路の危険箇所など急いで対応しようという気にもなります。

市だけでは行き届かない部分を皆さんが掃除してくださり、助かっています。市は業務ですが、皆さんはボランティアなので、無理をせず続けてもらいたいと思います。

■インタビューを終えて・・・

review

スタンプカードを作りボランティア参加者にスタンプを押す。10 分ボランティアという形で数多く参加の機会をつくる。今日できる人でやり、できないときは無理をしない。というルールを生徒自身で考え、楽しく実践を続けている様子は、他の活動でも大いに参考になると思います。

2012. 9. 10 取材

高校生もまちづくりの一員 ～ 大野みんなのまつり ～

■事業概要

info

昭和 55 年に第 1 回が行われました。子どもからお年寄りまでが集まり、地元住民が参加するステージや多彩な催しを楽しめるイベントです。宮島工業高等学校（宮工）の生徒もこのまつりを支える一員として、毎年参加し、第 30 回では建築科の生徒 34 名でツリーハウスのアスレチックを作り上げました。



■事業の背景やきっかけ

introduction

平成 15 年、「今までは、高校生の参加が少なく、まつりに若い世代のエネルギーが欲しかったので」と、まつりの事務局が同校にシンボルタワー作成の話を持ちかけました。

ちょうど、地域やまちに、何かできることはないかと思っていた同校との思いが一致し、高校生による作品づくりが始まりました。平成 24 年が 10 年の節目になりました。



3 年建築科の皆さん

広島県立宮島工業高等学校

負担が偏り、当初はクラス内で揉めることもありましたが、みんなで頑張ろうと決めて取り組みました。毎日、夜遅くなり大変でしたが、当日は、子どもたちの喜ぶ笑顔を見ることができてよかったです。

地域での活動は生徒たちの学びの場です。本校の使命は

「技心」。地域に出て実践の場で活動させてもらうことで、心が育まれます。地域でのボランティア活動が、当たり前のことになってほしいと思っています。



近藤 明弘先生



辰見 潔さん

大野支所 地域づくり推進課

このまつりで、高校生活の一番の思い出づくりの場になればと思います。大野地域には特色のある地域活動がほかにもあります。

宮工にはいろんな活動に参加してもらっているため、地域の人は、普段から生徒に声をかけやすいのではないかと思います。これからも、生徒が地域へ入りやすい雰囲気をつくり、若い子が地域で活動する、魅力ある地域づくりを進めていきたいと思っています。

■インタビューを終えて・・・

review

教育の現場は学校だけでなく、地域でも。そんな先生の思いに対して、地域がそれを受け入れています。小さな子どもたちが、学校と地域が協力して行ったこのまつりを楽しんでいました。高校生の姿をみた子どもたちも、いつかは、支える側になってくれるのではないかと感じました。

2012. 9. 12 取材

親子で楽しい交流を！ in 原地区

～はらきっず～

■事業概要

info

はらきっずでは、自然豊かな原地区の地域資源をうまく活用して、未就園児が動植物に触れ合う自然体験学習や、親同士の子育て交流を応援する取組みを実施しています。この事業では、原地区の農業者から田畑を借りるなど、地元住民のサポートを交えることで、住民自らが直接、原地区の魅力を発信する場としての役割も果たしています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

「原を想う」「原に住みたい」と慕ってもらえる、未来のまちづくりの担い手となる子どもたちを、地区全体で育てていくことを目的として、平成26年から活動を開始しました。また、原地区の子育て環境の充実化も目指しています。現在では、未就園児のみならず、園児や小学生を対象とした枠も新しく設けたことで、参加者が親子50組を超え、交流の場が広がりつつあります。



藤井真奈さん

原地区在住

「原地区での子育て交流の機会を増やしたい」という何気ない発言を、原市民センターや地区の人が反応してくれたことで、「はらきっず」が始まりました。



中本園芸
中本吉紀さん

年を重ねるごとに、1年間の活動内容が充実していき、参加者である親子の楽しい姿や笑顔にやりがいを感じています。

農業者、保育士、行政の3つの持ち味を出し合いながら、原地区の魅力を引き出しています。そのため、3つのうちどれか1つでも欠けてしまうと「はらきっず」は成り立ちません。お互いに協力していくことがとても大切だと感じます。

原市民センター

「はらきっず」では、子どもたちの純粹に遊んでいる姿や素直に喜んでいる様子を見ることができます。

市の意見をただ押し付けるのではなく、相手と同じ目線になって、気持ちを汲み取っていくことが重要だと感じました。

原市民センターとして更に手助けはできないかと考えています。「原といえば、はらきっず」というイメージを確立していくために、はらきっずに関わる地域の人を増やしていきたいです。

「はらきっず」を通して、原地区の魅力に気づいてくださる人が少しでも増えていくと、うれしいです。



室 浩樹さん

■インタビューを終えて・・・

review

何気ない市民の声に、市や地域の人が反応したことで、大きなまちづくりや交流の場が生まれる動きにつながっていく過程を、お話を聞く中で実感することができました。市民と市がうまくお互いの良さを引き出し合うことは、お互いをよく理解し合っているからこそその成せる業だと思います。「協働」とは、まずお互いの良さを知ることから始まるのだと、今回気づくことができました。

2016. 8. 31 インターンシップ実習生取材

コロナ禍の子育てを応援したい！ ～オンライン離乳食相談～

■事業概要

info

子どもの離乳食をこれから始める方や最近始めた方に、離乳食を作るコツを伝えたり、離乳食に関する悩みごとに答えたりする離乳食相談を、オンラインにより実施しています。オンラインの良さを活かして、保健師と栄養士とで協力しながら子育ての応援をしています。

オンライン 離乳食相談

オンラインで気軽に栄養士に直接相談ができる
「オンライン離乳食相談」を zoom を活用して開催します

■事業の背景やきっかけ

introduction

これまでの来所による育児相談を、新型コロナウイルス感染症による影響で、令和2年3月から中止していました。代わりに電話による相談が増えましたが、お子さんの顔が見えず、適切な助言ができないことが多く、子育て中の方からも「離乳食について悩んでいても、コロナ禍で外出できず、相談会に行けない」との声が。そこで、6月からオンラインによる離乳食相談を開始しました。

広島県西部厚生環境事務所・ 保健所管内地域栄養士会

コロナ禍で私たち栄養士会でも、ITの必要性を認識していました。4か月健診がなくなり、離乳食に不安を抱えている人も多く感じていたところ、市の提案でオンライン相談を始めることになりました。今はまだ手探りで実施している状況で、オンラインの長所・短所に気づけていませんが、離乳食の見本より紙に絵を画いて説明する方が伝わりやすいことも分かってきました。離乳食は子育ての中でもハードルが高いので、オンライン相談を活用してもらい、少しでも不安が解消できればと考えています。コロナ禍が収まって、オンライン相談は続けていきたいと思っています。準備して、子どもを抱えて外出するのは、とても大変なことです。オンライン相談ならそうした負担が軽減できますので、相談方法の選択肢の一つとして残していきたいです。



佐藤照子さん



陣内菜奈さん

福祉保健部 子育て応援室

オンライン相談のメリットは、保護者が子どもに離乳食を食べさせる様子を栄養士に見せながら、具体的なアドバイスを受けれることです。これは、オンライン相談を始めてから気づけました。もちろん、オンライン相談が苦手な方もいますが、相手に合わせて使い分ければと考えています。今はインターネットの発達で情報が手軽に入りますが、信頼のおけない情報も多いので「ネット情報より専門家による相談」を呼び掛けています。今、子育て中の方々が一人で悩まずに、オンライン上で気軽に会話、相談ができるオンライン「おしゃべり広場」も開設しています。これからも安心して子育てをしてもらえるよう、オンラインを活用して子育てを応援していきたいです。



深井 俊美さん



百合野 さやかさん

■インタビューを終えて・・・

review

新型コロナウイルス感染症は、社会状況の変化を起こし、新たな生活様式が求められるようになりました。そのような中で、市民の要望に応えようと、市の保健師と関係団体所属の栄養士と一緒に、オンラインという新たな手法に取り組んでいます。

協力し合って新しいことにチャレンジできるのは、日ごろからお互いが信頼し合っているからこそだと思います。子育てを応援するという目標のもと、両者が役割分担しながら取り組む「協働」の姿を見ることができました。

2020.10.30・11.9取材

5. 多様な暮らしが選べ、快適に暮らせるまちに

私たちの公園をつくろう ～公園づくりワークショップ～
活気あふれる元気な地域をめざして ～吉和おさんぽギャラリー～
子どもの声でにぎわう玖島をめざして ～くじまの森 自由なマーケット～

私たちの公園をつくろう

～ 公園づくりワークショップ ～

■事業概要

info

地域の皆さんに愛される公園づくりをめざし、行政だけが整備内容を決めるのではなく、利用者の皆さんの思いや意見、アイデアを取り入れるために、ワークショップ※の手法を取り入れています。ワークショップでは、利活用、予算経済性、安全性、維持管理・運営などについて合意形成を図り、設計に反映します。



■事業の背景やきっかけ

introduction

平成9年度の佐原田公園（宮内地区）の整備が、廿日市市における市民参加の施設づくりの最初の取組です。以降、地域の皆さんの暮らしに最も身近な街区公園や、防災機能を持つ公園など、これまで14カ所の公園についてワークショップで整備内容や維持管理の方法などを検討してきました。今年度は、廿日市駅北土地区画整理区域内に整備する城内第2公園について、設計前のワークショップを開催しています。



伊藤 利彦さん

佐方地区在住

計画が白紙の状態から、市民がどういうことを求めているかを聴き、反映されるのは良い取組だと思います。ただし参加する市民は素人なので、イメージを広げることができるよう他の公園の事例を示すなど行政側の準備も必要です。

行政は「作る」ことは得意ですが、「いかにうまく使い、管理するか」ということが下手だと思います。今後は、作った後の活用についても、知恵を出し力を注いでもらえることを期待しています。



池田 実希子さん

建設部 施設整備課

地域の皆さんと一緒に事業を進めていく機会が少ない中で、どうやったら皆さんの意見をうまく引き出せるか、「よいけれど現実には取り入れにくい意見」に対してどう対応すればよいかなどに悩みながら進めています。

地域の皆さんへは、ワークショップへの参加に対して感謝しています。

公園づくりだけでなく、他の場面でも市民と一緒にやることを広げていきたいです。

■インタビューを終えて・・・

review

施設に愛着を持ち、自分たちのものとして大切に利用してもらうために、市民と市が同じテーブルについて検討するワークショップの取組は、とても効果的だと思いました。

2012.9.8 取材

※ワークショップ：目的とするテーマについて、参加者が共通の体験をしながら、対等の立場で話し合い、何かを学びあったりしながら、全体としての考えをまとめる手法。

活気あふれる元気な地域をめざして

～ 吉和おさんぽギャラリー ～

■事業概要

info

“地域の元気のきっかけづくり”を目的として、出展者の自宅を開放して作品展示を行います。さらには自然豊かな吉和地域ならではの体験プログラムや、昔ながらの民家でほっと一息など「吉和地域の魅力をまるごと紹介する」イベントです。地図を見ながら地域内を自由に回ってもらうことで、吉和地域の魅力を直接感じてもらいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

「吉和おさんぽギャラリー実行委員会」の一員でもある地域支援員が、各世帯を訪問し、いろんな方とお会いした中で、吉和地域にはものづくりを楽しむ方が多いということを知り、そんな地域の方たちの魅力を生かしたいと考え企画されました。

また、著しい人口減少が進むこの地域で「もっとたくさんの人に吉和地域に来ていただき、吉和地域のよさを知ってもらいたい！」との思いもこめられています。



佐藤 麻友さん

吉和おさんぽギャラリー実行委員会

この事業を通じて、お年寄りの顔や名前を知ることができ、地域の人とのつながりが増えました。



吉岡 真理さん

メンバーは若い女性を中心ですが、地域では発言力がちょっと弱い…。



地域支援員
吉富 有美さん

初めての取組なので、今やっていることが本当に吉和の人のためになっているか、と不安になります。そういうときに市が支援をしてくださるので、心強いです。これをきっかけに、内外に関わらずいろんな人がいろんなかたちで関わることができ、吉和を愛する人が増えたらと願っています。



研谷 浩樹さん

吉和支所 地域づくり推進グループ

最初に出展者向けの説明会を開催した際に、出展者の方々がとても積極的で、そこに地域パワーを感じました。実行委員会のみなさんも主体的に動いてくださっていて「これはいける！本気にならないと」と感じ、支援したいと思いました。

今回の事業の特徴は、市民の方が主体となって取り組まれているということです。

今後もこのような事業を取り入れてまちづくりを進めていき、地域のコミュニティも広がればと思います。

■インタビューを終えて・・・

review

市民と行政が自然にかかわり合い、お互いのよいところ、強みや得意なところを出し合い、それをひとつにすることが、いいまちづくりにつながってくるのだと思います。

2012.9.6 インターンシップ実習生取材

子どもの声でにぎわう玖島をめざして ～ くじまの森 自由なマーケット ～

■事業概要

info

平成26年3月30日、佐伯地域の玖島地区在住の若者を中心に開催された「くじまの森 自由なマーケット」。当日は、800人近くの方が住民1,044人（平成26年4月1日現在）の玖島地区に集まり、若手作家が制作した手づくり雑貨や、食べ物、地元産品などを楽しみました。くじまの森をきっかけに、地区内外の交流が広がりつつあります。



■事業の背景やきっかけ

introduction

平成24年3月の玖島保育園閉園、平成26年度末での玖島小学校閉校など、少子化の進んでいる玖島地区。子育て世代の減少と地域の未来を危惧した在住の若者が「玖島に人を集めたい、知ってもらいたい」という思いから、仲間を募り、「くじまの森 自由なマーケット」を開催しました。今回のイベントを弾みに若い子育て世代の移住をめざし、多様な主体を巻き込みながら取組を進めています。



玖島地区で家具工房
Rags-to-riches を営む
淀川誠さん

くじまの森

実行委員会はなく、ラフな話し合いで企画を進めています。義務感はないです。このイベントを通じて地域支援員

の早川さんと新たに出会い、地域と支所をつなぐパイプ役として、かかわってもらいました。佐伯地域では、大虫さくらまつり、浅原楽市楽座など、それぞれの地区で活性化に取り組んでい

ますが、ゆくゆくは地域全体でやりたいです。今後、子どもたちの声が聞こえる玖島地区にしていくために、子育て世代の呼び込みだけでなく、移住後のバックアップにも取り組んでいきたいです。



玖島郵便局長
山崎誠司さん

佐伯支所 地域づくりグループ

支所は、物品の貸し出しや会場設営のほか、「子どもたちの居場所もつくりたい」というくじまの森スタッフの声をうけ、市民センターに「キッズルーム」を設けました。「支所にやってほしいこと」を具体的に相談してもらえたので、かかわりやすかったです。

若者世代の定住促進に向け、平成26年9月から新たに入った地域支援員とともに取り組んでいきます。

淀川さんのように仕事を持った移住者を呼び込んで、もっと暮らしやすく楽しいまちにしたいです。



地域支援員
早川幸江さん



久保田裕美さん

■インタビューを終えて・・・

review

中山間地域に若者、特に子育て世代を呼び込むために、彼らと同じ世代が地域づくりに取り組むことは、とても効果的です。支所も、くじまの森に寄り添いながら、足りないところを補う形でかかわっており、お互いに支え合う関係が構築されていると思いました。

2014. 8. 5 取材

6. 盛んな産業といろいろな働き場があり、 成長するまちに

企業の新商品開発を支援 ～広島工業大学研究室訪問事業～
あなたのチャレンジをサポートします！ ～廿日市ビジネスチャレンジコンテスト～

企業の新商品開発を支援 ～ 広島工業大学研究室訪問事業 ～

■事業概要

info

市内の企業と市がともに、広島工業大学の研究室を訪問し、研究内容を知ること、広島工業大学の研究内容が参加企業の新商品開発や生産工程の見直しなどにつながるものがないかどうか可能性を探るとともに、参加された企業などの連携、ネットワークの構築、人材育成などの支援を目的としています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

市は、地域経済への効果が期待される産業振興施策を廿日市市産業振興協議会※と連携して実施しています。この協議会が主体となって実施するプロジェクトは三つありますが、その一つが地域資源を活かした新商品開発への取組です。新商品開発を企業が進めていくための支援として、平成23年度から「広島工業大学研究室訪問事業」を定期的に行い、毎回、企業十数社、金融機関、宮島工業高等学校、各経済団体などが参加しています。



大坂 英雄さん

広島工業大学

大学と市が常に会っている関係がとてもよいと思います。この事業を通じて新たな企業を知ることができ、企業からも大学に相談が行われるようになりました。

今後は企業同士の見学会が行われるなど、つながりが生まれればよいと感じています。市の関与が企業に安心感を与えています。時間はかかると思いますが、企業と大学・教授の信頼関係が築かれ、商品開発などの成果に繋がってほしいと思います。



桜井 元康さん



平岡 直樹さん

環境産業部 商工労政課

市は企業と大学との連携をお手伝いしたいです。企業から何か相談があれば、すぐに大学を紹介できるようになりましたが、これは市と大学との関係ができているからです。

新たな産業を創出し、市内に産業連関が生まれればと思います。企業同士の見学は、ニーズもありぜひ企画したいです。これは新たな企業の掘り起しにつながると思います。

大学との連携はありがたくその一言に尽きます。

■インタビューを終えて・・・

review

大学の持つ知識や技能等を積極的に生かして市の産業振興を進める上で、市が関与することは、企業にとっても安心感を与えているのだと感じました。企業同士が出会い、連携できるきっかけづくりの場を整備していくことが市の役割だと思いました。

2012. 9. 10 取材

※産業振興協議会：大学、商工会議所、商工会、金融機関、国、県、市で構成される横断的に連携した組織で、廿日市市の産業振興施策について、議論しています。

あなたのチャレンジをサポートします！ ～廿日市ビジネスチャレンジコンテスト～

■事業概要

info

市内で新しくビジネスを始めたい人を掘り起こすため、「廿日市ビジネスチャレンジコンテスト」を実施しています。

若い経営者や働く人の活躍が、地域の活性化につながるように、市や廿日市商工会議所、同青年部が連携し、ビジネスチャレンジを形にしていく計画づくりや、事業のPR活動など、廿日市市で創業を目指す人を応援しており、過去の実績者によるビジネスも形になり始めています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

人口減少による介護・医療等の地域の問題や、若者の流出など懸念される中、廿日市商工会議所青年部は、若い人が地域の中で輝くことで地域が元気になると考え、「若者がチャレンジしやすい環境」「社会問題を解決していける環境」をつくりたいと提案し、平成30年度にスタート。毎年レベルアップしながら、廿日市市で創業したい人を応援する仕組みづくりに取り組んでいます。



経営サポート課
見玉 貴広さん

廿日市商工会議所

事業を始めて3年目になりますが、コンテスト参加者が多くのメリットを受けられるように試行錯誤を繰り返しています。今後は、顧客の新規開拓や広報・宣伝などをサポートするアフターフォローや、他のビジネスと連携できるようなバックアップに力を入れたものにしたいと考えています。これまで、コンテストから創業された店舗の周りでは、地域の活性化が見られていると思います。コンテストへの参加をきっかけに創業を手助けすることが、事業者のみならず、廿日市全体の活性化につながることを考えています。



青年部
川本 真督さん

環境産業部しごと共創センター

宮島を含め海から山まである廿日市は、ビジネスを立ち上げるのにも良い環境です。「働く場所がないから、都市部から出身地である廿日市に戻ってこない」「住所は廿日市だけど仕事は広島で探す」ではなく、むしろどんどん外からも「廿日市で何かやりたい！」「働く場所がないなら自分で作ればいい！」ということに気づいていただける事業だと思います。ビジネスのアイデアを持っている人をサポートするために、しごと共創センターでは個別相談も行っていますので、創業を目指す人にはコンテストによる創業支援を合わせた枠組みとしてうまく使っていきたいと思っています。



阿須賀 芳恵さん



香川 佐織さん

■インタビューを終えて・・・

review

廿日市と一緒に盛り上げる仲間を増やしていきたいという商工会議所青年部の思いがコンテストという形になり、商工会議所と廿日市市が協働して创业者のサポートをしている様子を知ることができました。このコンテストをきっかけに事業者同士の連携が深まり、廿日市市の事業活動がますます活発になっていくと思います。

2020. 11. 24 取材

7. はつかいちならではの個性を育み、 誇り・愛着が持てるまちに

団塊世代の居場所づくりから、つながりのあるまちづくりへ

～四季が丘地区の住みよいまちづくり活動～

ひまわりと人の輪を咲かせよう ～花のある吉和づくり～

私たちのまちのルールは私たちの手で ～原地区景観協定～

次代につなぐ郷土の文化 ～宮島踊のDVD制作～

「歴史と文化を楽しむこと」から「まちへの愛着」へ ～はつかいち塾～

みんなの「ふるさと」を守りつづけるために ～大虫さくらまつり～

市民発案！地域の魅力紹介イベント ～とうもろこし食べようかい～

官民一体で国際大会を成功させよう ～ASTCアジアトライアスロン選手権2021廿日市～

地域とつながるワークショップの実施 ～住宅政策課の市営住宅セルフリフォーム～

団塊世代の居場所づくりから、つながりのあるまちづくりへ ～ 四季が丘地区の住みよいまちづくり活動 ～

■事業概要

info

四季が丘の公園等の剪定・清掃活動などを行い、地域の安全と安心のまちづくりに寄与する活動をされています。年末には地域の方を招いて歌声喫茶を開き、手作りクッキーなどでおもてなしをしたり、「井戸端会議」のメンバーから派生した里山ハイキング同好会やバラ愛好会などのグループづくりの活動にも取り組まれています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

団塊世代の退職を控えていた平成 18 年に、公民館が退職される方々が地域活動に参加しやすくなるための受け皿として、「地域デビュー支援講座」を開催しました。その後「井戸端会議」を講座名とし、地域での仲間作りやまちづくりの輪に加わる入り口を提供しながら、気軽に話し合える場所づくりを目指す団体として活動がスタートしました。平成 24 年 5 月には公共施設里親（アダプト）制度による里親に認定され、現在は 28 人で活動されています。



石野 義之さん

井戸端会議

当初は飲食が中心の集まりでしたが、飲食だけでなく地域のために何かしようということで、団地内の公園の剪定作業から始めました。



藤田 章さん

最近では公園等の清掃に対して地域の方からの支援があり、私たちの活動が皆さんに認めてもらえてとても嬉しく思っています。また、自分たちで未来について話し合える場所にもなっています。毎年 12 月には歌声喫茶を開いており、地域の方々が毎年楽しみにしてくれています。



足立 勝さん

四季が丘市民センター

「井戸端会議」の活動は、団塊の世代の人たちが活躍する、これからの時代に必要な新しい形だと思っています。

今では「井戸端会議」のメンバーの方から派生して結成された里山ハイキング同好会やバラ愛好会など、本当に地域の受け皿となっています。

多くの方に評価される働きかけをして、できることは支援していきたいと思っています。そして「井戸端会議」という団体をもっと知ってもらいたいと思っています。

■インタビューを終えて・・・

review

お金のたくさんいる時代だからこそ、自分たち市民が率先して活動していくことが必要であり、また市民と行政が自らのまちでお互いに汗を流し、無駄遣いを減らしていくべきだとお聞きました。公園の剪定や清掃などをボランティアとして活動されており、「ありがとうございます。」という感謝の気持ちを伝えたいと思いました。

2012. 8. 29 インターシップ実習生取材

ひまわりと人の輪を咲かせよう

～ 花のある吉和づくり ～

■事業概要

info

吉和地域の各種団体が構成する「花のある吉和づくり実行委員会」主催で行われ、毎年ひまわりの植えボランティアを募集し、地域内外から多くの人に参加して行われる土に親しむ地域づくり活動です。満開となる吉和夏まつりの日には、ひまわりを摘み取り、ボランティア参加した方にプレゼントします。



■事業の背景やきっかけ

introduction

平成 15 年、地元のウッドワン美術館でゴッホの絵画『農婦』が特別展示されたのをきっかけに、細井原地区で“ゴッホの里・吉和 花のある地域づくり”をテーマにしたひまわりの植栽事業がスタート。地域住民やボランティアの協力などを得て農地面積を拡大しながら植栽本数を増やし、ひまわりを咲かせています。平成 24 年は、実行委員 10 団体のメンバーで企画実施され、約 150 人のボランティアの参加がありました。



花のある吉和づくり実行委員会

梶本 正五さん

地域の人が運営に関わり、地域外からボランティアが参加する取組です。ボランティアへの昼食は、地域のが地元の食材を使って準備してくれます。



江田 愛さん

高齢化が進んでいますが、毎年参加してくれる人がいるので継続が大切です。市職員もボランティアとして 100 人ぐらい参加してほしい！職員の姿が見えれば心強く感じますし、地域の人と一緒に汗をかくことで、地域のことが分かり合えると思います。

環境産業部 観光課



長谷川 大地さん

もっと多くの人にひまわりを見に吉和地域へ来てもらいたいと思います。

小路 正英さん

実行委員会への補助金交付事務だけでなく、ボランティアとしても関わり、吉和夏まつりにはひまわりがたくさん咲いているのを見て、地域の人と一緒に参加してよかったと感じました。

環境産業部内の職員にもボランティア参加を呼びかけ、これからも地域の人と一緒に汗をかい、感動を味わいそれを伝えていきたいと思っています。

■インタビューを終えて・・・

review

自分が住んでいない地域での地域活動に対して、私たち職員は、まずは地域への行事に参加することから始め、少しずつでも、地域のボランティアとして、次にスタッフとして関わり、さらに、深く地域の人と関われるようになれば、その地域の人との信頼関係が芽生えてくるのだと思いました。

2012. 9. 13 取材

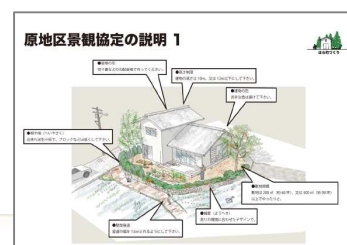
私たちのまちのルールは私たちの手で

～ 原地区景観協定 ～

■事業概要

info

原地区では、平成 22 年 3 月、眺望や自然を生かした原のまちらしい景観をつくるためのルールとして「原地区景観協定」を作成しました。協定の内容検討も普及活動も、作成後、提出された協議書の審査も、すべて地区の住民が中心となって自主的に取り組んでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

平成 16 年に都市計画法が改正され、市街化調整区域への建築制限が緩和されました。「国道 433 号の拡幅整備が進むと、原地区にも高い建物が建ったり無秩序な開発が進むかもしれない」「眺望のよい、自然のある景観を守りたい」と、住民が危機感を持ったことが、取組の始まりでした。有志十数人で「原地区まちづくりの会」を結成し、専門家のアドバイスを受けながら先進地の視察や勉強会、まちの皆さんへの説明会などを進め、協定が策定されました。



上田 康之さん

原地区コミュニティ推進協議会 まちづくり部会「景観づくり倶楽部」

中学校の PTA 会長になったことをきっかけに地域の活動にもかかわるようになりました。

このルールづくりの取組では、地域に説明するたびに意見が飛び交い、練り直す作業が大変でした。でも「あきらめずにやる」「みんなでやる」「熱い気持ち」を大切に、ここまでやってきました。

まちは短期でできるものではありません。ルールの不備な点を改善しながら、また、後継者を巻き込みながら、取り組んでいます。



児玉 剛樹さん

建設部 都市・建築局 都市計画課

役所で仕事をしていると、制度を導入することが目的となってしまうがちですが、地元の人の思い（目標）を叶える手法として制度を活用すべきだということに気づきました。

この協定は、紳士協定なので、守らない案件が出るとなし崩しになることも考えられ、不安です。これからも地域の皆さんの思いをしっかりとつないで、地元のルールとして根づかせてほしいと思います。

■インタビューを終えて・・・

review

自分の暮らすまちのルールを自分たちで考え決める、その後の運用も審査などもすべて自分たちで行う。市は、情報提供や技術支援など、住民の思いを達成するために力を発揮する。という、この取組は、住民主導のまちづくり、住民自治の一つの手本とも言える取組だと思いました。

2012. 9. 27 取材

次代につなぐ郷土の文化

～ 宮島踊の DVD 制作 ～

■事業概要

info

廿日市市の無形民俗文化財に指定されている宮島踊を次世代に伝える記録として、伴奏や踊り方を収録した DVD を制作しました。初めて踊りに挑戦する人でも、分かりやすい内容となっており、市内の図書館と市民センターで貸し出し、宮島観光協会で販売をしています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

現在、宮島踊の伴奏や踊りができる人は、高齢化し、保存継承が喫緊の課題となっています。その上、今まで引継がれてきた宮島踊の記録の保存状態が悪化しており、過去の踊りを知ることができなくなりました。何とか「今」の宮島踊を後世に残していこう、と宮島芸能保存会は思い立ち、平成 20 年から宮島踊の DVD 制作を始めました。平成 23 年度に完成し、それまでの道のりは長いものでしたが、メンバーにとって満足のできる作品となりました。



岡田 好江さん

宮島芸能保存会

DVD になったことが、新聞に掲載されたため、島外からも、問い合わせがあり、さまざまな人が関心を持ってくれたことが嬉しいです。島の子どもたちに、郷土で守ってきた宮島踊を伝えるのに、宮島学園で、三味線、太鼓、踊りなどを教える活動を定期的に行っています。

支所の方には、DVD 制作のアイデア出しや、広報活動など、さまざまな支援をしていただき、私たちは奮起して、制作に取り組むことができました。相談できる人がいることは、安心ですね。



田宮 憲明さん

宮島支所 地域づくり推進課

今いる人たちが宮島踊を守らなければ、絶えてしまうと思いました。市の役割としては、DVD という形で記録を残そうというアイデアを出しました。保存会側の「宮島踊を残したい!」という核となる強い「思い」があったからこそ、今回、このような形に残すことができたのだと思います。

今後も保存会がずっと続き、宮島踊を盛り上げていくためにも、皆さんが関心を持てるように、市は、ブログや広報紙で宮島踊の情報を発信していきます。

■インタビューを終えて・・・

review

地域に最も身近である支所は、「支援」のメニューをいくつか手札として、常に持っていれば、市民の方からのさまざまな課題や要望などに迅速・適切に対応できます。宮島芸能保存会と宮島支所のように、市民の方が必要なときに、市がアイデアを提示できることが大切です。

2012. 9. 10 取材

「歴史と文化を楽しむこと」から「まちへの愛着」へ ～はつかいち塾～

■事業概要

info

廿日市地区の歴史的資産や伝統文化を、知り、学び、楽しむことを通じて、地域に愛着と関心を持ってもらうことを目的とした取組です。廿日市市郷土文化研究会、廿日市地区まちづくり協議会、中央市民センターの三者が「はつかいち塾」を構成し、日頃の活動で培ったつながりを生かして歴史講座や街道まつりを開催しています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

マンションやミニ団地の建設等で、ここ数年、廿日市地区に新しく住み始める若い世代が増えています。古くから宿場町として栄えた「はつかいち」のよさを伝えたい、また、住民や世代間の交流を図りたいという三者共通の願いから、廿日市市郷土文化研究会の発案により、歴史や文化を生かしたまちづくりへの取組が本格的に始まりました。平成24年度に始めた街道まつりでは、山陽女子短期大学や広島工業大学と連携した「桶寿司の復活」と「iPadを使った歴史散策」、また、津和野街道や西国街道でつながる他地区の文化紹介などを行っています。



正木 康章さん

廿日市市郷土文化研究会 廿日市地区まちづくり協議会

「郷土の文化と歴史の研究活動をまちづくりにいかしたい。」「地域に暮らしている自分たちが主体となって、各種団体と連携しながらまちづくりを進めたい。」という思いから、街道まつりには、地元の獅子舞を始め、地区外からも玖島神楽団（佐伯地域）などに参加してもらいました。このように、まちづくりに歴史を盛り込み、知らない文化を交流させることが大切です。

答えを急がず横のつながりを大切に、目的をみんなで語り、進み方を共有しながら取り組んでいきたいです。



谷口 秀則さん

中央市民センター

市民センターは、広報、問合せ対応、申込み受付など、はつかいち塾の裏方的な役割を担っています。廿日市地区にはたくさんの歴史や文化があります。「学び」の視点を大切にしながら、これらを広く知ってもらい、地域への愛着につながるような事業を展開していきたい。しかし、単独ではできません。はつかいち塾の三者で協力し、一緒に取り組んでいきたいです。

2本の街道の接点に位置する市民センターは、地域づくりの拠点です。これからみんなが集い、つながりが広がっていくよう役割を果たします。



小田 豊さん

■インタビューを終えて・・・

review

地縁型・テーマ型の団体と地域づくりの拠点である市民センターが連携して、まちの歴史や文化をうまく生かした取組です。楽しく学べる機会が身近なところにあり、自分たちが暮らしているまちに、関心を持つ人が増えていくことにつながっています。こうして関心を持った人たちが、今後まちづくりにかかわる人財となってもらえるよう、その巻き込みをどのように進めていくのか、つなぎ役となる市民センターの役割は重要だと思いました。

みんなの「ふるさと」を守りつづけるために ～大虫さくらまつり～

■事業概要

info

かつて住んでいた人がふるさとを思い出すきっかけになればと、佐伯地域の「大虫」という集落にゆかりのある地域住民を中心に実行委員会が立ち上がり、「大虫さくらまつり」が開催されました。樹齢 300 年と言われる枝垂れ桜の下、出身者によるステージや地元の民話をもとに作られた劇の上演など、ふるさとに思いを馳せる機会となりました。



■事業の背景やきっかけ

introduction

廿日市市内には佐伯・吉和地域を中心に、20 世帯未満で住民の半数以上が 65 歳を超えている集落が多く存在します。大虫の人口は 9 人（平成 25 年 11 月 1 日現在）、集落の維持も課題です。お互い支え合おうと平成 19 年度に設立された津田・四和ふれあいまちづくりの会では、平成 20 年度から「枝垂れ桜」（市天然記念物に指定）の保全活動に取り組んでいました。お父様が「大虫」出身の伊藤里美さんは、佐伯高校の文化祭で大虫の民話劇「おそめ桜」を見たとき、「蘇った桜と共にこの劇をみんなで見たい」と。それぞれの取組や思いがつながり、この企画がスタートしました。



斉藤 眞治さん

大虫さくらまつり実行委員会 津田・四和ふれあいまちづくりの会

1 人を巻き込むと次々広がっていき、日頃のつながりがまつりの原動力だったと思います。平成 20 年度から取り組んできた枝垂れ桜の保全。回復し始めた桜を見てもらえる機会にもなりました。支所みなさんが私たちを支えてくださり、感謝の気持ちでいっぱい。佐伯が好きになってくれたらうれしいです。「ふるさと」への思いが薄れている今日、「大虫応援隊※」としてこの集落や桜を見守ってくださる方も増えました。多くの人の「第二のふるさと」になればと思います。



伊藤 里美さん



古田 正貴さん

佐伯支所地域づくりグループ

最初にこの企画を聞いたときにとっても興味を持ち、全力でバックアップしたいと思いました。まつり当日は一日中來場者の交通整理で会場には行けませんでした。來場者の表情や終了後の地元の方、実行委員の方の笑顔から、素敵なまつりになったのだということが伝わってきました。まつりを通して、最初は不安そうだった人々の気持ちが喜びへと変化していく様子を目の当たりにできたことは貴重な経験。「地域の思いを形にするためのサポート」、これこそが支所の役割だと実感しています。



吉岡 航さん

■インタビューを終えて・・・

review

地域に住んでいる人だけでなく、さまざまな主体を巻き込み、開催した大虫さくらまつり。開催終了後も「大虫応援隊」のように継続的に地域にかかわる人を増やし、愛着をもってもらうこと、これが地域づくりの第一歩だと思いました。

2013. 11. 25 取材

※大虫応援隊：大虫地区と枝垂れ桜を見守る意識を少しでも多くの人に持ってもらいながら、これからも活動を続けていくことができるよう、まつりで会員を募集した。会費は 500 円。会員には季節の便りやイベント、春には桜の開花状況などのお知らせが届けられる。

市民発案！地域の魅力紹介イベント ～とうもろこし食べようかい～

■事業概要

新型コロナウイルス感染症の影響により、市民センターでの事業を催すことが難しかった中、佐伯地域津田地区にある地元農産物の産直販売・軽食喫茶「ひふみ市場」さんの主催、津田市民センターの共催で、佐伯地域の特性を生かした、地元農作物の収穫体験「まるでフルーツ！ 採りたてとうもろこしを食べようかい↑」が、令和2年7月に開催されました。

info



■事業の背景やきっかけ

遊休農地や農業の担い手、支え手不足は、佐伯地域での深刻な地域課題の一つです。「ひふみ市場」の杉谷さんから、「地元の子どもたちに、美味しい農作物を食べて農業に関心を持ってほしい。将来は中山間地域でファーマーを目指してもらいたい。」そのための企画として、俵田さんが「ひふみ市場」裏の遊休農地で育てた生でも食べられる白いトウモロコシ「ピュアホワイト」の収穫体験と、地元産のいちごやさつまいものアイスクリーム販売をしてみたいのでサポートしてくれないかと持ち込まれ、チラシ作成や地域へのお知らせなどを、津田市民センターが後方支援しました。

introduction

トウモロコシ生産者

妻の実家の田が休耕田になりそうだったので、畑にして「ピュアホワイト」の栽培を始めました。それは自分が初めて食べたときに、あまりの美味しさに衝撃を受けたことがきっかけです。収穫体験した子どもたちの笑顔がとても印象的で、杉谷さんの提案がなければ、あの笑顔は見れなかったですし、植え付けもとの声があったので、来年のモチベーションになっています。こうしたイベントからコミュニティができれば、地域の農業が活性化すると思いますので、今後も頑張っていきたいです。



俵田 隆雄さん

津田市民センター

市民センターが最初の相談先選ばれたことがうれしかったです。杉谷さんの思いに共感し、まずはイベント開催を経験し、次へとステップアップしていただきたいと思います。また、参加者にトウモロコシ収穫という楽しさだけでなく、農業の現実を知っていただくことも社会教育ですので、イベント開催のノウハウを持つ市民センターとして、広報や行事保険、参加費などの事務的なサポートをしました。いずれは地域からのボランティアで運営され、市民センターは回りからサポートしていく形が理想と思っています。地域あつての市民センターなので、農業に関連することにも取り組むことで、津田地区のための市民センターになっていると思います。



日比野 稔さん

ひふみ市場

直売所では、佐伯と吉和地域で作られた野菜を扱っています。自分が食べて「美味しい！」と感動するものを、多くの人に知ってもらい、特に地域の子ども達に知ってほしい思いから、この企画を考えました。イベントの反響は大きく、参加した人から聞いて、直売所に訪れる人もいました。トウモロコシを求めて来る人も増え、地域の食材の魅力をPRできたのではないかなと思います。



杉谷 健二さん

■インタビューを終えて・・・

review

個人の思いに市民センターがつながることにより、社会教育や地域活性化としての取り組みになっています。俵田さんも杉谷さんも、農業に対する熱い思いをお持ちですが、イベントが二人にとって負担にならないよう、市民センターが上手くサポートしている好事例を知ることができました。

2020. 11. 11 取材

官民一体で国際大会を成功させよう！ ～ASTCアジアトライアスロン選手権2021廿日市～

■事業概要

info

スイム・バイク・ランの3種目を行うトライアスロン。令和3（2021）年4月24日・25日に、廿日市市でトライアスロンの国際大会、ASTCアジアトライアスロン選手権が、「挑戦」「勇気」「感動」をキャッチフレーズに開催されます。この大会は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の出場選手選考の対象になっています。廿日市市では官民によるASTCアジアトライアスロン選手権廿日市実行委員会を組織し、大会の成功に向けて取り組んでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

2019年3月に開催されたアジアトライアスロン同盟（ASTC）の理事会で、2020年のアジアトライアスロン選手権の開催地に、2016年に続いて廿日市市が選ばれました。大会の開催は、廿日市市の魅力を発信し、スポーツ推進や青少年の健全育成、国際交流、観光振興などへの効果が期待されるので、関係機関・団体による実行委員会を組織し、官民一体となって開催に向け取り組んでいくことになりました。

なお、大会は世界における新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年の開催は一時休止に。その後、国際トライアスロン連合を始めとする関係団体との協議の結果、2021年に開催することになっています。



ASTC アジアトライアスロン選手権 廿日市実行委員会

2016年の大会運営に、初めての国際大会としては多くのボランティア参加がありました。私が所属するスポーツ協会を含め、各種団体の皆様が深い関心と誇りを持ち、今回の大会開催を待ち遠しく思っているところです。また、前回からのコースの変更についても、地元の理解と協力をいただき感謝しています。

コロナ禍ですが、大会に向けての熱意は下がっておらず、小中学生などの若年層に周知しながら、スポーツの普及・振興に向け、関心を高めていきたいです。

市全体で盛り上げ、大会が成功するよう積極的に取り組んでいきます。

古田正貴さん



教育委員会 アジアトライアスロン推進室

大会を開催するにあたり、協賛企業を始め、コース周辺の住民や事業所、海上や道路の管理者など皆様からご理解とご協力をいただくことが大切です。

スポーツの力強さや感動を体感でき、廿日市市を世界にアピールする機会となるように、官民一体となって取り組んでいます。

選手や関係者が安全に、安心して大会に参加いただくことを第一として、万全の準備を整えます。

對中智博さん

■インタビューを終えて・・・

review

関係団体と行政で構成された「実行委員会」により、大会の開催に向けて取り組む協働事例です。そして、大会は市民ボランティアや沿道の事業者など多くの方々が関わることで、開催することも知りました。このコロナ禍の中、大会が成功することで、ますます市民のボランティア力が高まることと思います。

2020.11.12・11.17取材

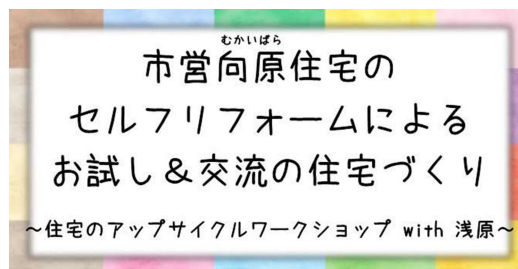
2021
新着

地域とつながるワークショップの実施 ～住宅政策課の市営住宅セルフリフォーム～

■実践事例

info

近年、田舎暮らしを求めて移住してくるなど、中山間地域の人気が高くなっていますが、地区によっては提供できる住宅が余りにも少な過ぎる状況です。住宅政策課では、お試しで住める住宅があればとの思いから、募集停止になっている市営住宅のセルフリフォームに取り組みました。



■実践内容

main



1. この取り組みのきっかけ

佐伯地域の浅原地区は、若い家族が移住してくるなど、沿岸部から来られる方が増えていました。同地区には、募集停止に伴って、使われていない部屋が発生している市営向原住宅がありましたので、この一室を綺麗に改修して、お試しで住んでいただける住宅にしようというプロジェクトを開始することになりました。

2. どのようなワークショップ？

市営住宅の改修に対する地域の考えを聞き、関心や理解を得るため、ワークショップによって事業説明と意見交換を行い、その後もワークショップ形式でセルフリフォームをすることにしました。このワークショップには、現在の地域住民だけでなく、この市営住宅に住んでいた方、浅原に移住された方に誘われた方などが参加し、ワークショップでは専門家の方々に先生となっていただくなど、多様な方々の協働でリフォームに取り組みました。



3. 結果として

ワークショップによって様々な意見が聞け、専門家の先生の力が借りられたので、質の高いリフォームができました。また、普段は関わりがない方々の交流もでき、参加者も地域も、満足度の高い取り組みになりました。

■協働に近づくポイントとは？

review

行政だけではできないことがたくさんあります。人と人とのつながりにより、協力を求めることが大切です。そのためにも、様々な方に声をかけるのがよいでしょう。

2021. 10. 19 研修発表から

8. 市民主体の協働により、みんなで幸せを 実感できるまちに

まず、わたしたちにお声かけください ～お客様案内スタッフ事業～
あなたのまちにお出かけします ～出前トーク～
地域資源を生かしたまちづくりに向けて ～地域学セミナー～
学生にボランティア活動のきっかけを！ ～大学と社協のボランティア事業～
市民センターがつなぐ地域づくり ～上平良さくらの里整備事業～
市民主体の拠点づくりから、持続可能な地域づくりへ ～佐方市民センターの地域運営～
「協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員」に
～地域コミュニティ活動体験研修～
住民の強い気持ちが人を動かす ～宮島島内の桜・紅葉の保全活動～
自分ごととして捉える in 吉和 ～吉和支所の仕事のしかた～
移動販売で買い物支援と住民交流の創出 ～四季が丘買い物サロン～
地区の人が集う場を作る ～串戸ワイワイ土曜朝市～
コロナ禍における持続可能なまちづくり
～ICT を利用した活動支援「Zoom を使いこなそう研修」～
オンラインを活用した地域の打合せ・会議のあり方 ～廿日市市町内会連合会との連携～

まず、わたしたちにお声かけください

～ お客様案内スタッフ ～

■事業概要

info

廿日市市役所の1階総合案内では、市役所に来られた方が窓口や担当部署が分からないなどで、お困りになることがないように、お客様案内スタッフを配置し、優しく、丁寧に案内しています。お客様への積極的な声掛けを心がけ、ささいなことでも気軽に聞いていただける雰囲気づくりに取り組んでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

「お客様に満足してもらうために」という市職員の思いから、平成22年度に、お客様案内スタッフは設置されました。総合案内では、1日130件くらいのお客様の接客をしています。お客様の待ち時間が軽減され、スムーズにそれぞれの目的を達成して帰っていただくことができるようになり、市役所のサービス向上につながっています。スタッフの人数も現在2人体制となったことで、迅速で的確なご案内ができています。



箱田 久美子さん

お客様案内スタッフ

市民課の職員・スタッフは大所帯ですが、お互いに良い関係です。本当は何でもわかっていて方がいいのですが、予想外の質問を頂くこともあります。せっかく来てくださったので、「わかりません。」という一言でお帰りいただかないよう、できる限り調べてお答えするようにしています。また、お客様によっては、広島弁で対応した方が親しみやすいこともあるなど、話し方の工夫にも心がけています。毎日「ありがとう。」と声をかけてくださるお客様がいらっしゃる、とてもやりがいがあります。



小谷 裕子さん

自治振興部 市民課

お客様案内スタッフの方には、とても丁寧に仕事をしていただいています。窓口が混雑し、すぐに対応できないときも、お客様の様子を見ながら、場に合った対応をしていただき、とても助かっています。また、私たちは、スタッフの方々が働きやすいよう、穏やかな雰囲気を心がけ、見守っています。スタッフの方は、一目でお分かりいただけるように、声をかけやすく明るい人です。これからも親しみやすいお客様案内スタッフでいてほしいです。

■インタビューを終えて・・・

review

市役所は、用事がなければ、市民の方は来ない場所だからこそ、お客様案内スタッフだけでなく、市職員が日頃から、ひとつひとつ丁寧な対応をすることが必要であり、市民の方と市役所の信頼関係を築く第一歩となります。これは協働で取り組む前提として大切なことです。

2012. 9. 7 取材

あなたのまちにお出かけします ～ 出前トーク ～

■事業概要

info

市民の皆さんに市政への理解を深めていただくことを目的に、市の職員が、市内の各所に出かけ、施策や事業について説明し、意見交換を行う事業です。「市の財政状況」「総合計画」といった市のまちづくり全般に関するものから「防災」「ごみの分別」「スポーツ施設の利用」といった暮らしに身近なものまで、各種のテーマを設定しています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

市政に関する情報公開が進む中で、意見交換を伴う双方向の情報伝達を行う場、行政が持つノウハウを伝える場として、平成21年度からこの事業を始めました。寄せられた意見や提言を市政に反映することも、目的の一つです。

昨年度は、36回、1,400人あまりの皆さんに利用いただきましたが、この制度を多くの人に使ってもらい、市のまちづくりへの参加のきっかけにしてほしいです。



分権政策部 広報統計課
平井 翔太さん



山口 邦英さん

串戸地区コミュニティ自主防災

防災に関する基礎知識を得たいと思い、出前トークを利用しました。ここで「自助」について知り、実際の訓練で「共助」を知るといった流れで、住民の防災意識を高めていくのに、良い機会になりました。

総論的な話とともに、串戸地区の課題である浸水への対応や、今報道されている南海トラフの影響による津波などの話も聞けたら、より身近で関心が高まるのではないかと思います。

スペシャリストに話してもらうことは必要です。すぐに活用できそうな話を聞けて、非常に感謝しています。



松梨 輝樹さん



加美田 博さん

総務部 危機管理課

東日本大震災以降、市民の防災意識は高まっています。震災で犠牲になった人たちの思いを無駄にしないために、皆さんには備えをしてもらいたいです。

出前トークは、クイズも取り入れ、自助についてみんなに考えてもらえるよう工夫しています。限られた時間の中で、皆さんの関心のどの部分の話をするかを決めることに苦慮していますが、質問があるとうれしく思います。参加された皆さんが真剣に聞いてくださっていると感じています。



中田 健史さん

■インタビューを終えて・・・

review

市のことを知ってもらうこと、市民のことを知ることが、互いの信頼関係をつくり協働のステージに上がる第一歩だと思います。わかりやすく、市民により伝わりやすいやり方を工夫して出前トークに臨む職員の姿を見て、こういう職員を増やすことの大切さを感じました。

2012.9.3 取材

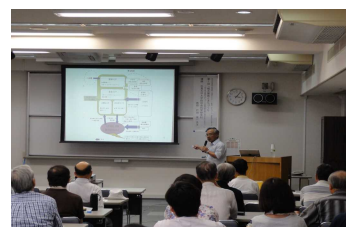
地域資源を生かしたまちづくりに向けて

～ 地域学セミナー ～

■事業概要

info

地域学セミナーは、第5次総合計画の推進にあたり、本市の多様な特性を知り、地域資源を生かしたまちづくりを推進するために開催する連続公開講座です。近隣の大学や地域住民と連携し、平成24年度から26年度にかけて「観光」「まちづくり」「歴史・文化」の三つの視点から本市域を読み解きます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

このセミナーは、廿日市市の地域資源に気づき、地域をあらためて見直すこと、それをきっかけに、新たに「公共」を担う人を発掘したいという思いから、第5次総合計画の策定にかかわったメンバーによって企画されました。まちや暮らしは、さまざまな地域資源が連鎖しあって成り立っており、多分野にわたる切り口から講話を行うこのセミナーは、総合計画を協働によって実現するための基礎づくりの場として位置づけています。



森保 洋之さん

広島工業大学大学院 工学系研究科

廿日市市とのご縁は深く、まちづくりのお手伝いをしたいという気持ちで、セミナーの企画を提言しました。受講者の皆さんが運営にもかかわる形に育つと、意義深いと思います。

これからは、まちづくりに多分野の視点からの知識や知恵を注ぎ込むことがますます必要になります。今後、市域の豊かな人材を生かして「大学・地域人コンソーシアム※廿日市」が形成されることを願っています。

分権政策部 総合政策課

セミナーに参加することで、身近な宝物に気づき、地域を見直すきっかけとなれると思います。

地域のいろいろな課題を解決するために、大学などの持つ専門的な知識や技術が必要な場面は、今後増えていくと考えています。このセミナーは、地域と大学などの人材をつなげる役割を担っています。

私も自分の住む地域の中で多くの人とつながり、まちづくりの仲間を増やしていきたいです。



高木 智子さん

■インタビューを終えて・・・

review

「公共」を担う仲間として、大学を含め地域の人材を発掘しまちづくりにかかわってもらうことの大切さを、あらためて感じました。市は、自らがまちづくりに取り組むとともに、さまざまな人たちをまちづくりに巻き込みながら、その人たちのつなぎ役（コーディネーター）としても機能することが必要です。

2012.9.7取材

※コンソーシアム：二つ以上の個人、企業、団体などから成る組織。共同で何らかの目的に沿った活動を行ったり、共通の目標に向かって資源を蓄えたりする目的で結成される。

学生にボランティア活動のきっかけを！

～大学と社協のボランティア事業～

■事業概要

info

ボランティア活動はしてみたいけどよくわからない…という学生のために、地域でボランティア活動の場を提供することを目的とした事業です。

大学と廿日市市社会福祉協議会が連携し「学生ボランティア応援会議」を構成して、定期的に情報共有や課題の発見をしながら学生の力が地域の力として生きていくよう取り組んでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

学生がもっと地域でボランティア活動しやすい環境と、仕組みを大学と社会福祉協議会で作ってほしいと、平成25年度、日本赤十字広島看護大学、山陽女子短期大学、広島工業大学の3校と社会福祉協議会が連携しました。ボランティア初心者の学生のために入門講座を開いたり、大学では難しいボランティア登録窓口設置を社協が担ったりしました。その結果各大学から学生がボランティア活動に積極的に参加するようになりました。



坂東 克彦さん

広島工業大学 学生

この事業に参加することで価値観も年齢も違う人と接することができ、視野が広がりました。また、事業を通して、責任ややりがいを感じることができ、行動力もついたと思います。

ボランティア活動で、大学生活が有意義なものとなり、就職活動に生かすこともできました。より多くの学生にこの事業に参加してほしいので、今後はもっと周囲に声をかけをし、情報発信することで、自分たち若い世代がしっかりと動いていきたいと思っています。



井上 美代子さん

廿日市市社会福祉協議会 はつかいちボランティアセンター

私たちは、ボランティアを必要としている団体と大学とのつなぎ役をしています。学生さんとの応援会議では、学生さんの生の声を聞くことができているので良い機会になっています。

ボランティア活動はしたい側と、してほしい側の気持ちがあって初めて成立するので、双方が「よかった、楽しかった」と言える関係が大切だと思います。これからは学生さんが主体となって活動し、この事業を盛り上げてくれればいいなと思っています。

■インタビューを終えて・・・

review

実際に地域のために活動してみると、自分たちが住む地域の良いところを新たに発見することができると感じます。地域の関わりが薄くなっている今、学生と地域が話し合いをしながら活動するこの取り組みは人の輪を広げ、信頼関係を築くことにもつながるので、まちづくりを進めていく上で欠かせないものであると感じました。

2014.9.10 インターンシップ実習生取材

市民センターがつなぐ地域づくり ～ 上平良さくらの里整備事業 ～

■事業概要

info

平良地区の陽光台団地の開発残地を利用し、地域の憩いの場としてさくら並木の遊歩道を整備しようという取組です。平良地区市有林管理委員会が負担する整備資金をもとに、地区コミュニティ、市（市民センター、維持管理課）、廿日市造園緑化建設業協会、PTA、小学校などが連携し、平成25年春の完成をめざして整備に取り組んでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

市有林管理委員会の「西広島バイパス用地の買収金を地域の役に立てたい」という思いをきっかけに、かつて速谷神社の参道として可愛川下流まで続いていたさくら並木を復活し憩いの場にしようと、この取組は始まりました。平成23年9月、市有林管理委員会、コミュニティ、市の三者で協定を交わし、整備と維持管理における各々の役割分担を明記し、相互に連携し、協働して事業に取り組んでいます。



折本 善政さん

平良地区市有林管理委員会 平良地区コミュニティ

管理委員会が市にお金を寄付し、市だけで整備したのでは、地域がこんなに盛り上がることはなかったと思います。

整備予定地の下刈りは人海戦術で、13日にわたる作業に、のべ683人に参加してもらいました。今後も、過度の負担がかからないよう工夫して、息の長い取組として続けたいです。平良地区では市民センターがコミュニティなどの事務局的な役割も果たしてくださり、私たちの活動のキーステーションになっています。



田中 和雄さん
三宅 英俊さん

平良市民センター 建設部 維持管理課

市民センターは、コミュニティや各団体とのつなぎ役としてかかわっています。将来、このさくらの里が地域の宝となり、地域の一体感の醸成を育むものになればと願っています。

維持管理課は、造園緑化建設業協会や補助金のメニューを紹介したり、事業の進め方を提案するなど協力しています。今回で完成ではなく、少しずつ作り続けることで、新たな力を巻き込みながら、進めるとよいと思います。



茶村 勝興さん



衆樹 泰文さん
沼田 大輔さん

■インタビューを終えて・・・

review

この取組は、市民センターが地域づくりや課題解決の拠点としてうまく機能している事例だと思えます。ふだんから、地域の人との関係、市役所各課との関係などを築きながら、必要なときに、人や情報をコーディネートした結果が、地域の憩いの場として形になりつつあります。

2012. 9. 24 取材

市民主体の拠点づくりから、持続可能な地域づくりへ ～ 佐方市民センターの地域運営 ～

■事業概要

info

平成 24 年度から佐方市民センターの管理運営は、佐方地区の住民自治組織である佐方アイラブ自治会において行われています。今までよりも、多くの住民の方に地域づくりに参加してもらえるよう、地区の実情に合った独自の地域づくりの推進や拠点施設としての機能を発揮させていきます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

市では、公民館を市民センターと位置付け、地域づくりの拠点施設として、持続可能な地域における自治を築けるよう、その役割を発揮していくことを目標にしています。“地域にできることは地域で”という組織理念のもと活動する佐方アイラブ自治会は、地域運営のモデルとして取り組んでいますが、移行時は、市と同自治会で、約2年、30回余りの話し合いの機会を持ち、互いの思いを共有しながら進めてきたため、スムーズなスタートが切れています。



重村 泰夫さん

佐方アイラブ自治会

地域運営に移行するまでの市からの指導やバックアップに感謝しています。市からの情報は、市の職員の方が必要に応じて提供してくれています。地域運営に移行したことで、仕事量は多くなりましたが、その分、知識も増えたので、地域の皆さんに発信していきたいです。平成 24 年 6 月から利用申請受付時間を延長したことで、新しい利用者の発掘にもつながりました。今後も新たな地域の人に地域づくりの拠点としての市民センターを知ってもらおう機会をつくっていきます。



畑尻 真理子さん



木下 英治さん

自治振興部 自治振興課

市から地域運営に移行しましたが、講座の開催や、施設の利用管理など、今までどおりのサービスを提供しており、順調なスタートに安心しています。今後地域住民と一体となって、地域運営のメリットを最大限に生かした取組を期待しています。スタッフさんの仕事量が増えていますが、これからは、情報提供や、労務・経理関係など事務的な部分のサポートをしながら、他地区・他地域の市民センターに向けて、魅力あふれる佐方地区の地域運営について広めていきたいです。



船本 雅美さん

■インタビューを終えて・・・

review

地域のことを一番よくわかっている、地域の人たちで市民センターを運営することで、行政の立場では、なかなか手が届かないことにも、柔軟に取り組むことができます。今後、魅力ある地域運営をさらに広げていくためにも、市のサポートが重要となります。

2012. 8. 30 取材

「協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員」に ～ 地域コミュニティ活動体験研修 ～

■事業概要

info

市民主体の地域づくり活動を理解し、協働によるまちづくりの意識を持つ職員を育成するため、「地域コミュニティ活動体験研修」をスタートしました。初年度である平成25年度は、試行的に市役所近郊の佐方地区、廿日市地区、平良地区のコミュニティ推進団体に採用後3年目の職員を研修生として受け入れていただき、さまざまな取組を体験しています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

廿日市市協働によるまちづくり基本条例では「市は、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員を育成します」と定めています。特に、これからの廿日市市のまちづくりを担う若手職員には、地域の資源を知り、思いを肌で感じてほしい。一方地域には地域活動に関わる若者が少ないという悩みも…。こうした目的を双方が共有するため「パートナーシップ協定」を締結、まちづくりに欠かせない「人づくり」を市と地域が協働で取り組むという新しい試みです。



竹中久人さん

廿日市地区まちづくり協議会

この研修がきっかけで、地域の実態を知ってもらえました。地域と研修生で「あーでもない、こーでもない」というやり取りが出来てよかったです。私たちは若い人の新しい発想が欲しい。だから、会議では遠慮せずアイデアを言ってほしいと思います。私たちの地区にかかわりをもってくれた研修生が、これから先もかかわり続けてくれるとうれしいです。まちをよりよくするために、職員が持っているスキルを生かして「コーディネーター役」となってほしいと思います。



佐々木正臣さん

総務部 人事課

今回の地域コミュニティ活動体験研修は、自主的に参加する研修でしたが、対象職員29人のうち、22人が参加しました。研修生はみんな頑張ってくれているようですが、受け入れ3地区のみなさんの支えや、市民センターがつなぎ役になってくれているようです。これらの取組を通して「協働志向の職員」を一人でも多く育成できればと思っています。「コーディネーター」というスキルは座学では身につけません。市民の人たちと一緒に汗を流していきたいという気持ちがあります。

■インタビューを終えて・・・

review

少子高齢化が進んで行く中、若い人たちが率先して地域の中心に立ち、活動していくことが必要だと感じました。また、市民と職員がお互いに汗を流し合い、話し合い、分かり合っていくことが、地域の活性化につながっていく。これが廿日市市だけでなく日本全体に「協働」が広がるといいなと思いました。

2013. 8. 23 インターンシップ実習生取材

住民の強い気持ちが人を動かす ～ 宮島島内の桜・紅葉の保全活動 ～

■事業概要

info

多くの人に愛され誇れる名所づくりをめざし、宮島さくら・もみじの会は、宮島島内の桜と紅葉の育成管理を行っています。樹木の専門家や地元のコミュニティ推進協議会などと協力して、植樹、施肥、土壌改良、り病枝・枯枝除去、害虫駆除などの作業を年5～6回実施するとともに、定期的に育成状況の調査も行っており、毎年、美しい桜と紅葉が、宮島を訪れる人たちを楽しませています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

観光客が多く訪れる宮島の桜や紅葉は、すぐそばまでたくさんの人が行き交い地表が踏み固められるため、栄養や酸素が根まで十分にいき渡りません。放っておけば木が育たず老化も進む一方で、平成20年ごろは危機的状態でした。この状況を何とかしようと、住民をはじめとする有志が集まり樹木を守る活動を始めました。活動当初から、広島県緑化センターの正本良忠さんが無償で技術指導をされてこられ、現在は、息子の正本大さん（みずえ緑地株式会社）が引き継ぎ、作業の際には技術指導をされています。年々目に見えて樹木の状態がよくなっています。



宮島さくら・もみじの会
三次 正昭さん

宮島さくら・もみじの会 みずえ緑地株式会社

三次）故・正本先生はスタート時から、「何とかしないといけない、このまま放っておくと全部駄目になる、早い方がいいから」と無償で技術指導を引き受けていただきました。

宮島支所の職員の方も作業に参加していただいています。現場に来ることで互いにコミュニケーションがとれるので、きっと仕事に役立っているはずですよ。

正本）こうした活動は、散逸してなくなってしまいがちです。特に樹木の維持管理はすぐに成果が出せないため、継続は結構大変です。しかし、宮島の皆さんは、三次さんをはじめ住民の気持ちがとても強いので継続した活動ができていると感じています。



みずえ緑地株式会社
正本 大さん

宮島地域コミュニティ推進協議会事務局 (宮島支所地域づくりグループ)

コミュニティ推進協議会では、環境美化・保全の観点から生活・環境部会事業として、肥料や腐葉土の購入費用の補助をするなど活動を支援しています。参加できる活動日の午前中はブログの取材も兼ねて、作業を手伝っています。樹木のことなど様々なことを教えてもらえ、とても勉強になります。

文化と自然が共存する美しい宮島の景観を楽しみに、多くの人々が訪れていますが、この景観が守られているのは意欲的な皆さんによる地道な活動があるからだということを実感しています。引き続き、感謝の心とともにブログで活動状況の発信に力を入れていきます。



北野 寿枝さん

■インタビューを終えて・・・

review

宮島さくら・もみじの会は穴を掘ったり植えたり施肥などの手作業、みずえ緑地株式会社は技術的な指導やチェーンソーなどの機械作業、コミュニティ推進協議会事務局は肥料・腐葉土などの施肥に必要な費用の一部負担とこの活動の啓発、そして当日の手伝い。それぞれが役割を受け持ちながら一緒に汗を流して活動されていました。この一緒に汗を流すことこそが、人と人を近づけ結びつけて、継続した活動につながっているのではないかと感じました。

2016. 2. 18 取材

自分ごととして捉える in 吉和

～吉和支所の仕事のしかた～

■実践事例

info

吉和支所では、地域の方（協働相手）と同じ感覚を持って、自分ごととして捉えて業務に取り組んでいます。吉和文化祭、すい仙まつり、吉和神楽競演大会、よしわ夏まつりなどのイベントを通じて、地域と行政がお互いに信頼し合い、それぞれができることを行いながら、一緒にまちづくりを進めています。



■実践内容

main

1. 吉和支所の取り組み

吉和地域では、少子高齢化が進んだことにより、地域のイベントが人手不足で、協力が必要な状況にありました。吉和地域では、吉和支所をはじめとして保育園や学校なども地域内の各機関・団体と連携して、いろいろな事業や行事（吉和市民センターまつり、吉和おさんぽギャラリーなど）を行い、職員が積極的に地域住民の人と一緒に事業を盛り上げています。

2. なぜ協働によるまちづくりをするのか？

吉和文化祭の開催を例にあげます。これは市民センターまつりの側面もありながら、保育園の発表や小中学生によるやまびこ太鼓の演奏、神楽の上演、社会福祉法人のイベント、着ぐるみショーも一緒に行っており、吉和地域に関わる人と吉和地域の団体が一緒に事業を作り上げています。この文化祭を通じて、お互いの理解を深めたり、それまで知らなかった地域の魅力に気づいたりしています。



このように、市民と行政と一緒に考え、行動することによって、地域内の信頼関係が築け、住みやすい地域社会をつくることにつながっていくと思います。

3. 結果として

吉和地域では、こうした取り組みを進めることによって、地域経営の考え方が促進し、共助が推進されつつあると思います。例えば、イベント企画などを行う地域団体「吉和げんき村」の設立、吉和ルバースソースの商品化、地域外から多くの人を訪れる吉和夏祭りの開催などがあげられます。吉和では、市民が地域を盛り上げ、地域づくり活動が盛んに行われています。

■協働によるまちづくりにおいて大切だと思うことは？

review

地域をしっかりと知ることだと思います。行事、事業で地域の頑張りを知っているからこそ、地域の思いにも共感できると思えるようになりますし、地域の行事、事業に顔を出していき、信頼していただけるようになります。

地域と行政がお互いに信頼し合い、それぞれができることを行い、一緒にまちづくりを進めていく。この信頼関係こそが、協働にとって大切なのではないかと思います。

2020. 2. 14 研修発表から

移動販売で買い物支援と住民交流の創出

～四季が丘買い物サロン～

■事業概要

info

四季が丘地区では、商業施設の空き店舗で週に2回、マックスバリュ西日本による移動販売と地区社会福祉協議会による交流サロンが行われています。移動販売では小売り店の商品も並びほか、月に2回、もみじ銀行の移動店舗も合わせて営業をしています。また、空き店舗は近鉄不動産からの提供を受け、サロンはボランティアが運営しています。毎回、多くの住民が通い、四季が丘に活気を生んでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

時代の経過とともに、地区から金融機関や商業施設内のテナントが撤退し、平成24年には唯一のスーパーマーケットも撤退。その頃、地区社会福祉協議会が住民同士の交流目的に、ふれあいサロンを運営していたので、さらに「地域に買い物ができる場所を」と買い物支援の思いから、町内会連合会を始めとする住民主導でコンビニエンスストアの誘致に動く。その後、広電ストアが移動販売の実証実験を行い、令和元年6月から事業継承したマックスバリュ西日本による移動販売が正式に開始、同年7月からは、買い物に訪れた住民が交流できる場「四季が丘買い物サロン」がオープンしました。



藤田 章さん

四季が丘地区町内会連合会

お店の撤退で、まちが寂れると思いました。お陰で買い物サロンは盛況です。これは、日ごろの住民同士のつながりがあることが大きいからです。買い物サロンには他地域からの見学も多く、参考にさせていただいています。今、カフェなどの事業展開についての要望が上がっています。他にも様々な活動をしていることもあってできていませんが、実現に向けてこれからも地域ぐるみでの活動を続けていきたいです。

自治振興部 地域政策課

買い物サロンの立ち上げに当たり、事業計画の作成や業者との調整などは、市役所の得意分野なので、ノウハウを活かして支援させていただきました。部屋の改修作業も一緒に行いました。私たち職員は、地域のお役に立つことを心掛け、これからも務めていきます。



瀬戸 将央さん



向井 恵子さん

四季が丘地区社会福祉協議会

広い部屋を借りて、買い物サロンができるようになりました。サロンを運営していく中で重要なことは、場所ではないかと考えますが、四季が丘地区にはもともと人のつながりがあったからこそ、サロンが成功し、賑わっているのだと思います。これからもサロンに限らず、地区内の人々のつながりを育んでいきたいです。

■インタビューを終えて・・・

review

地域の課題を地域の人たちが主体的に、ビジネスの手法を用いて解決するコミュニティビジネスの事例と捉えられます。住民主導で誘致した移動販売だからこそ、地域住民が安心して買い物できていると感じました。サロンでの買い物で住民が元気になり、地域が活性化している場面を見ることができました。

2020.11.4・11.18取材

地区の人が集う場を作る ～串戸ワイワイ土曜朝市～

■事業概要

info

串戸地区自治協議会は、地区の人が育てた新鮮な野菜や果物などを販売する朝市を市民センターで開催しています。朝市当日は大研修室が開放されてサロンにもなり、毎回100人前後が訪れて、賑わいを見せています。6年目になる令和2年の途中からは、月1回から月2回の開催に変更し、ますます盛り上がっています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

串戸市民センターは、交通アクセスの良さから多くの自主活動クラブに利用されていましたが、活動者の大部分が串戸地区以外の人で、串戸地区の人が市民センターを利用することはほとんどありませんでした。そこで、串戸地区自治協議会は、地区の人が気軽に足を運び、集える場を市民センターに作ろうと、平成27年から土曜日の朝市を開始しました。



市里尚弘さん

串戸地区自治協議会

串戸地区自治協議会は、平成27年度から市民センターの指定管理者となりましたが、その前から地区の人が集う場を作りたいと思っていました。1回きりのイベントよりも息の長い企画ができればと、この朝市を考えました。朝市は、出店者さんの後押しもあって、10月から第2、第4土曜日の月2回開催になりました。地区の方に喜んでいただけるのがありがたく、顔見知りが増えました。がちがちではなく、ゆるやかなつながりも大事にして、これからも串戸地区の人がメリットを享受できる市民センターにしていきたいです。

串戸市民センター

これまでの市民センターは、自主活動クラブが中心でした。地区の人に利用される市民センターが理想と考えていますので、朝市を始めとした地区の人が関わるような事業を実施しています。市民センターの一番の役割は「つなぐ」ことですので、これからも皆さんの「学び」や「集い」が広がっていくために、「つながり」を大切に活動を進めていきます。さらに、子どもを始め各世代の居場所づくりにも取り組みたいと思っています。



松本雅知さん

■インタビューを終えて・・・

review

地区住民が集う場を作ろうと始められた「朝市」。今年で6年目を迎えられ、地区の行事として根付いているようです。そして、串戸地区のための串戸市民センターでありたいとの思いのもと、運営されている様子を知ることができました。

2020. 11. 12・11. 17 取材

2021
新着

コロナ禍における持続可能なまちづくり ICT を利用した活動支援「Zoom を使いこなそう研修」

■実践事例

info

コロナ禍においても持続可能なまちづくりをしていくためには、ICT を利用した活動が重要です。そこで、まちづくり活動団体が Zoom を利用した会議等が開催出来るようになるため、「Zoom 研修会」を開催しました。オンライン開催のため、開催当日までに、Zoom 会議の参加の仕方を協働推進課でフォローし、練習したうえで接続してもらいました。



■実践内容

main

1. コロナ禍だからこそ

市民活動センターネットワーク登録団体を対象に案内をしました。まん延防止重点措置期間中、集まって研修会をすることが出来ません。パソコン操作等を丁寧に支援したかったのですが、施設は利用停止。開催当日までに、Zoom 会議の参加の仕方を協働推進課でフォローしながら、テスト接続してもらいました。なにより Zoom アプリをインストールするところからです。



2. 協働による講座の企画・運営

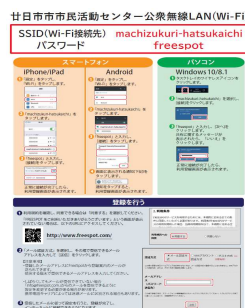
講座の企画にあたり、FM はつかいちにはチラシを作成していただき、講師の川本真督（かわもとまさよし）さんと共に企画会議を重ね、川本さんにはテキストの作成もしていただきました。既に、市民センター職員向けの Zoom 研修を実施されていたことから、内容をまちづくり活動団体向けに変更。本当に初めての方も数名、何度か会議に参加されたことがある方が数名でした。話を聞くだけでなく、実際に操作しながらの研修であつという間の90分でした。講座に参加出来なかったという意見も複数いただいたので、2回目の講座を企画し、講師には、黒木真由（くろきまゆ）さんをお願いしました。



3. オンライン会議開催に向けた市民活動センターのサポート

協働推進課では、市民活動センター内で開催するオンライン会議を実施するための、さまざまなサポートをおこなっています。

- ①機器の貸出・・・パソコンやプロジェクターなどオンライン会議用の機器について、無償で貸出しをおこなっています。
- ②Zoom のお試し利用・・・協働推進課所有の Zoom アカウントを利用して、オンライン会議開催のサポートをおこなっています。



■協働によるまちづくりにおいて大切だと思うことは？

review

新しい生活様式のひとつがオンラインによる打合せ。今回は Zoom の使い方を取り上げました。テキストは、市のホームページでダウンロード出来ます。ネットワーク環境がない方は、市民活動センターでは全館 Wifi 化していますので、気軽にインターネットにつながることが出来ます。ICT を活用することで、新たなつながりが広がることは、持続可能なまちづくりへの大きな成果です。

2021.11.30, 2022.1.27 研修



オンラインを活用した地域の打合せ・会議のあり方 ～廿日市市町内会連合会との連携～

■実践事例

コロナ禍において、事業企画をしては中止・延期を繰り返すまちづくり活動団体。集まることが出来ない中で、どうやって取組みを進めるか、相談を多数受けています。まん延防止重点措置期間の中で事業を実施するためには、オンライン開催しかありません。オンラインの活用に踏み出せない団体を後押しし、新たな活動のきっかけとなるよう、Zoomを活用した研修会を開催しました。



info

■実践内容



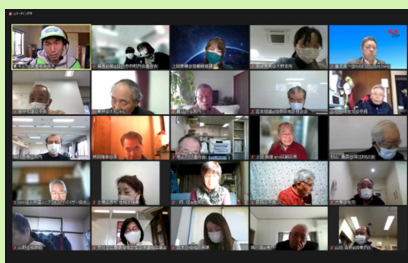
main

1. 廿日市市町内会連合会の取組み

コロナ禍で活動の制限を余儀なくされている中で、事業企画をしては延期、中止を繰り返す日々。施設が使用出来ない中で「三役会議も実施出来ない」と協働推進課へ相談がありました。そこで、Zoomを活用した三役会議の運営を支援し、何度かオンライン会議を重ねる中で、事業が出来ないのなら研修会は出来ないか、とやっと立ち上げた企画でした。

2. 集まることが出来ない中で、どうやって打合せをしたらいいのか？

会議や打合せが出来なくても、電話やメールによるやり取りはされていました。そうした中で総会を书面で開催せざるを得なかったり、Zoomによる会議や研修の案内が来たり、協働推進課には、そうした困りごとの相談を多く受けていました。



そこで、町内会連合会の三役会で、団体の皆さんの困りごとを研修テーマに選び、打合せをオンラインでする工夫をされている団体の取組みを発表してもらおうこととしました。好事例の発表ではなく、これなら出来そうかもと、きっかけづくりになる取組みの共有です。Zoomは無理でもLINEならみんな使っているはずですから…。

3. オンラインを活用した取組み紹介

★地御前地区自治会 会長 吉本恒雄さん「Zoomの活用例」

ホームページ立上げ、三役会や会議のやり方、市民センターでのZoom体験会開催

★深江万年青会 会長 杉山義彦さん 「グループLINEを使った取組み」

役員間の連絡にLINEを活用し、会議の連絡や情報共有に活用

★宮内コミュニティづくり協議会 会長 田村秀穂さん

「LINEのチャットやZoomを使った打合せ」



■協働によるまちづくりにおいて大切だと思うことは？

review

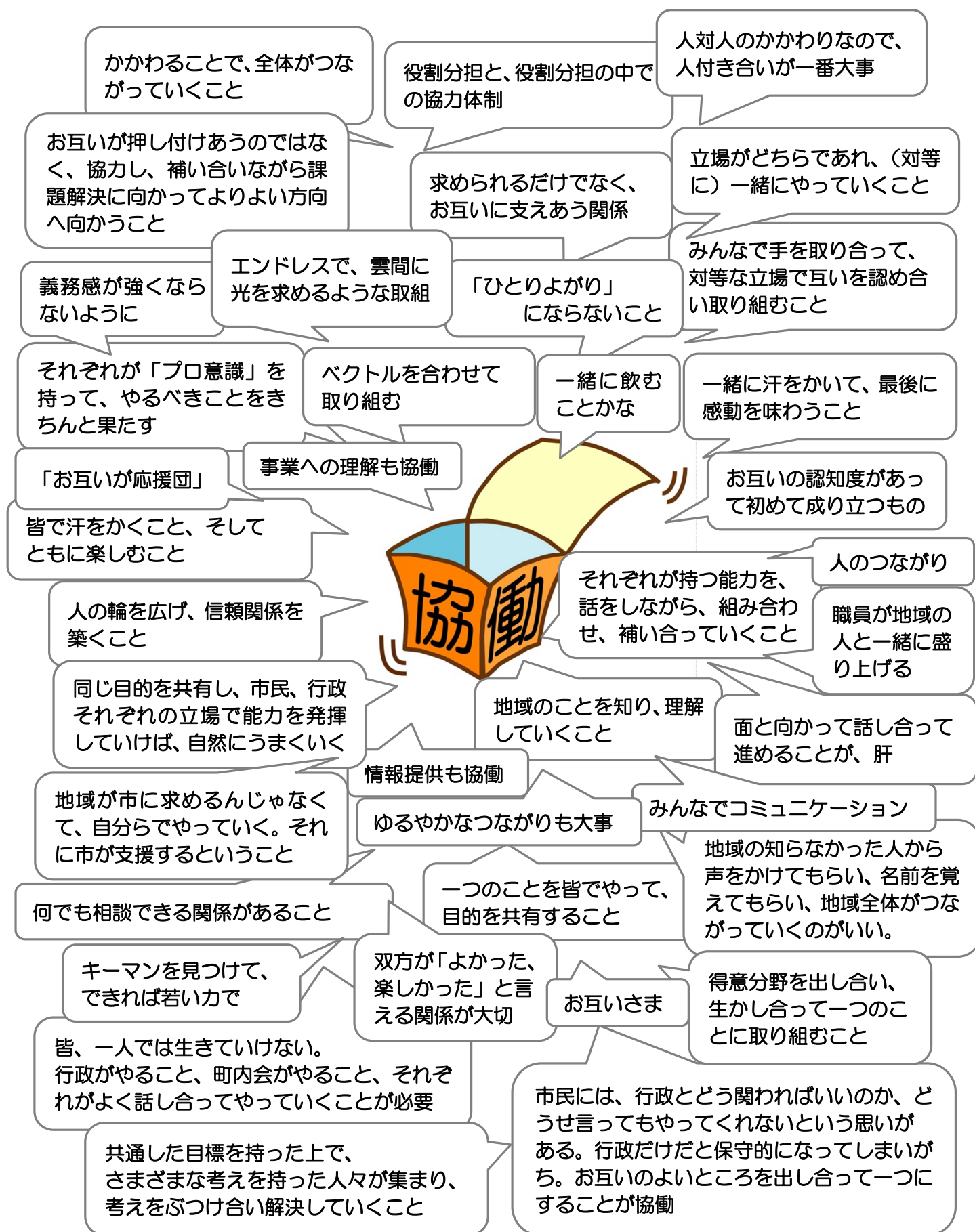
コロナ禍による会議や打合せが出来ない、という新たな課題。まちづくり活動団体が困っていることを解決するために出来ることを探して始まった企画。事例を聞くだけでなく、他の団体の状況を聞いたり、困りごとを共有したり。参加者は27名！チャレンジが嬉しいです。

出来ない、と初めからあきらめるのではなく、やってみよう！という気持ちになる人を増やしていく、小さなきっかけづくりを積み重ねることが大切だと思います。

2022.2.22 研修から

おわりに

『協働』ってなあに？ ～ インタビューでの皆さんの言葉を紹介します ～



協働事例集

平成 24 年（2012 年）10 月
平成 26 年（2014 年）3 月
平成 26 年（2014 年）11 月
平成 28 年（2016 年）3 月
平成 29 年（2017 年）3 月
令和 2 年（2020 年）3 月
令和 2 年（2020 年）12 月
令和 4 年（2022 年）3 月

第 1 版
第 2 版
第 3 版
第 4 版
第 5 版
第 6 版
第 7 版
第 8 版

編集発行：廿日市市（自治振興部協働推進課 市民活動センター）
〒738-0014 廿日市市住吉二丁目 2 番 16 号

取材	中川美穂	光井栄造	倉田 忍
	宮川佑介	香川佐織	小田 豊
	米原真理	和田 浩	三登大雅
	藤田 望	（2012 年度インターンシップ実習生）	
	伊藤麻衣子	（2012 年度インターンシップ実習生）	
	板村 駿	（2013 年度インターンシップ実習生）	
	河口早紀	（2014 年度インターンシップ実習生）	
	國田知成	（2015 年度インターンシップ実習生）	
	竹嶋奈々	（2016 年度インターンシップ実習生）	

表紙・デザイン 高木智子

